

SCIENCE AGORA 2011 | 11/18 (fri) ~ 11/20 (sun)

SCIENCE

AGORA

2011

新たな科学のタネをまこう 震災からの再生をめざして

開催報告書



サイエンスアゴラ 2011

# 新たな科学のタネをまこう 震災からの再生を

サイエンスアゴラは、子どもから大人まで、誰もが気軽に、サイエンスを楽しみ、サイエンスと社会のかかわりを語り合うひろば(アゴラ)です。6回目となる今年は、総数200近くの多彩な催しが集合。地域で活躍する個人から名だたる企業・研究機関まで、全国のあらゆる立場の人たちが同じひろばに立って、それぞれの考えやメッセージで“科学のタネ”を発信しています。ぜひ、自由に楽しみ、発見し、そしてあなた自身の想いを伝えて、サイエンスと社会のよりよい関係をつくりあげてみてください。

サイエンスアゴラ紹介	……002-007
セッション報告	……008-015
皆さまの声	……016-017
実施プログラム一覧	……018-026
出展者・登壇者索引	……027-029
次回出展のお誘い	……030-031

## サイエンスアゴラの歩み

第1回目のサイエンスアゴラ「サイエンスアゴラ2006：科学と社会をつなぐ広場をつくる」は、科学コミュニケーション促進の核となることを使命に、2006年、国際交流大学村（日本科学未来館、東京国際交流館、産業技術総合研究所臨海副都心センターの3機関で構成）において開催されました。

科学コミュニケーションの理念は、科学技術をめぐる様々な問題を、科学技術の専門家集団だけでなく、社会全体の問題として多様な人たちが議論し合うことにあります。ただし具体的な実践方法については様々な工夫の余地が残されています。サイエンスの楽しさに触れてもらい、関心層の拡大を図る取り組みから、科学技術政策について論じ合うことまで、サイエンスアゴラは、科学コミュニケーションを行うための「ひろば（アゴラ）」です。

回数を重ねるごとに、サイエンスアゴラは着実な発展を見せてきました。参加する団体・個人の数も増え、さまざまな人たちが集う場として成長しています。今回は新たな会場として東京都立産業技術研究センターとシンボルプロムナード公園が加わりました。

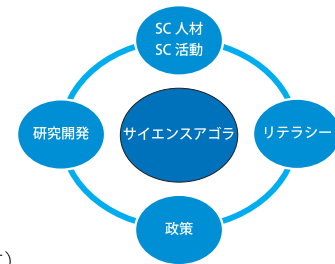
第3期科学技術基本計画（H18～22年）では「国民に支持される科学技術」「科学技術のコミュニケーション（科学コミュニケーション）促進」が謳われました。その実現を図るために、サイエンスアゴラは、「科学コミュニケーション実践・試行のためのひろば」、科学技術を活用してよりよい社会を実現するための方策を多角的に論じ合う複合型のイベントとして、2006年（H18）に開始されました。

今回で6回を数えたサイエンスアゴラは、政策策定者や研究者、教育関係者、学生・生徒、ボランティア、その他一般の方たちが科学技術や科学技術政策について自由に意見を交換する場を設け、多様な層の間でのコミュニケーションを促進すると同時に、科学技術がより身近な文化となることを目指しています。実施される企画の大半は公募により選ばれ、出展料も参加費も徴収しないすべての人に開かれたイベントです。

そこで目標としてきたのは、

- ・ 科学技術への信頼を高め、よりよい社会創成のための方策を考える場
- ・ 関心度の高低に関わらず、科学との付き合い方、活用の仕方を改めて意識する場
- ・ 研究者の顔が見える場
- ・ 科学コミュニケーションを社会に浸透させるための起爆剤

となることです。また、毎回、参加者に共有してほしいテーマを設定してきました。



第1回（2006年）「科学と社会をつなぐ広場をつくる」（科学コミュニケーターへの結集を目指す）

第2回（2007年）「みんなでつなごう未来のスイッチ」（科学コミュニケーション関心層の拡大を目指す）

第3回（2008年）「地球の未来 日本からの提案」（多様性の拡大を目指す）

第4回（2009年）「地球の未来 日本からの提案Ⅱ」（メッセージの発信を目指す）

第5回（2010年）「未来へつなぐ科学のひろば」（新たなセクターの呼び込みを目指す）

ご承知のように第4期科学技術基本計画策定中の2011年3月、東日本大震災が起きました。津波と福島第一原子力発電所事故による未曾有の被害とその後の大混乱により、科学技術に対する信頼感は著しく損なわれ、社会に不安が広がりました。

今回の大惨事は、人智の限界を思い知らされると同時に、知恵を集めて立ち向かうしか有効な方策はないことを再確認させました。4月に開かれたJSTの科学コミュニケーション推進委員会ではサイエンスアゴラ2011に関する議論も行われました。委員からは、サイエンスアゴラ2011は震災からの再生と科学技術への信頼回復の場となると同時に、すべての国民が他人まかせにせず、今一度、科学技術の活用について考え直す機会となるべきであるとのご意見をいただきました。

そこで「新たな科学のタネをまこう——震災からの再生をめざして」をメインテーマに採択し、開催に向けた準備を開始しました。特に力を入れたのは、地震・津波・原子力発電所事故などのリスクに対する問題を共に考えるシンポジウムやトークセッションなどの企画です。また、例年どおり、子どもから大人まで、幅広い層を対象とし、日頃、科学技術はなんとなく苦手と思われる方々にも気軽に参加してもらえらる企画も出そろい、学校教育・生涯教育関係者、企業からの出展参加も増えました。

8月に閣議決定された第4期科学技術基本計画（H23～27年）では「政策への国民参画の促進」が謳われています。この目標は科学コミュニケーションの理念そのものであり、サイエンスアゴラがまさに目指してきたことです。今後ともサイエンスアゴラは、科学リテラシーの醸成、理系人材の育成、研究開発の促進、政策への国民参画等の促進を目指す科学コミュニケーションの核となります。

## 多様な方々の経験や専門的知見に支えられています

科学コミュニケーションのあり方と活動推進の議論の場として、「科学コミュニケーション推進委員会」が設けられています。また、同委員会の討議結果も反映し、サイエンスアゴラを効果的に実施するために、「サイエンスアゴラ企画委員会」を設置しています。サイエンスアゴラ2011では4月～5月に企画委員の公募を実施し、委員には主催企画の立案をはじめ得意分野を活かして幅広くご活躍いただきました。

### 平成23年度科学コミュニケーション推進委員会

- ◎野間口 有 独立行政法人産業技術総合研究所 理事長  
 奥村 直樹 総合科学技術会議 常勤議員  
 戒能 民江 お茶の水女子大学 客員教授  
 片岡 正俊 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター 理事長  
 川本 裕子 早稲田大学 教授  
 豊田 皓 株式会社フジテレビジョン 代表取締役社長  
 長谷川 寿一 東京大学 教養学部長  
 坂東 元 旭山動物園 園長  
 平田 オリザ 大阪大学 教授  
 渡辺 憲司 立教新座中学校・高等学校 校長

(◎＝委員長；肩書きはいずれも就任時)

### サイエンスアゴラ2011企画委員会

- ◎高安 礼士 財団法人全国科学博物館振興財団 公益事業課長  
 大場 寿子 Oba design and education 代表  
 小山 元子 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター 経営企画部 広報室長  
 下村 正樹 独立行政法人産業技術総合研究所 広報部 総括主幹  
 中村 直樹 科学新聞社 編集局  
 中山 瑠衣 独立行政法人国立科学博物館 事業推進部 学習企画・調整課  
 難波 美帆 早稲田大学大学院政治学研究所 准教授  
 二階堂 恵理 科学読物研究会 副運営委員長  
 原田 良信 独立行政法人放射線医学総合研究所 企画部 広報課長  
 横山 広美 東京大学大学院理学系研究科 准教授  
 横山 雅俊 NPO法人市民科学研究室

(◎＝主査；肩書きはいずれも就任時)

## 開催概要

- 日程** 2011年11月18日(金)、19日(土)、20日(日) ※18日(金)は開幕シンポジウムおよび Mb-00 のみ実施
- 会場** 日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター、東京都立産業技術研究センター、シンボルプロムナード公園、国連大学ウ・タント国際会議場(11/18(金)開幕シンポジウムのみ)
- 主催** 独立行政法人科学技術振興機構(JST)
- 共催** 日本学術会議、独立行政法人産業技術総合研究所、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター、国際研究交流大学村東京臨海副都心グループ
- 協力** 株式会社フジテレビジョン、独立行政法人種苗管理センター
- 後援** 内閣府、文部科学省、農林水産省、独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人理化学研究所、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人海洋研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、プリティッシュ・カウンシル、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、公益社団法人日本技術士会

### 参加者数

計7,057人

【参加者数内訳】

(単位:人)

	11/18(金)		11/19(土)	11/20(日)	計
来場者数	開幕*1	165	2,024*3	2,988*3,4	5,352
	Mb-00*2	175			
出展者数	1,705*5				1,705

\*1 開幕シンポジウム受付人数 \*2 Mb-00受付人数 \*3 来場者カード配布数  
\*4 11/19,20(土日)両日来場の88人を含むのべ人数 \*5 出展者バッジ配布数

### 出展団体数

計183団体

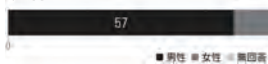
### プログラム数

計194プログラム

出展団体・プログラムのリストや内訳などの詳細は、本報告書18~29ページ(実施プログラム一覧、出展者・登壇者索引)や公式ウェブサイトをご参照ください。

>> <http://scienceagora.org/>

### 性別



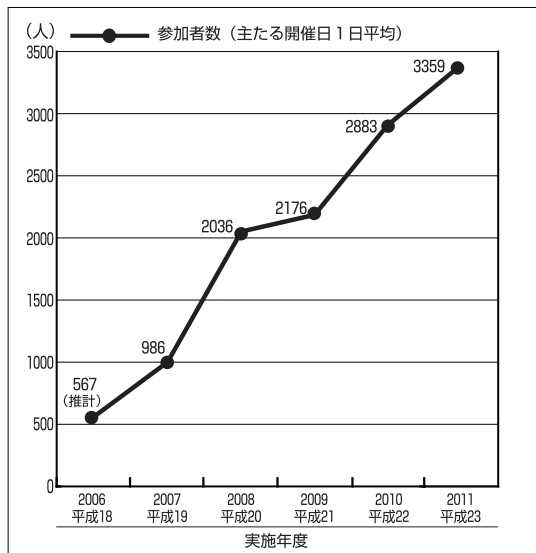
### 職業



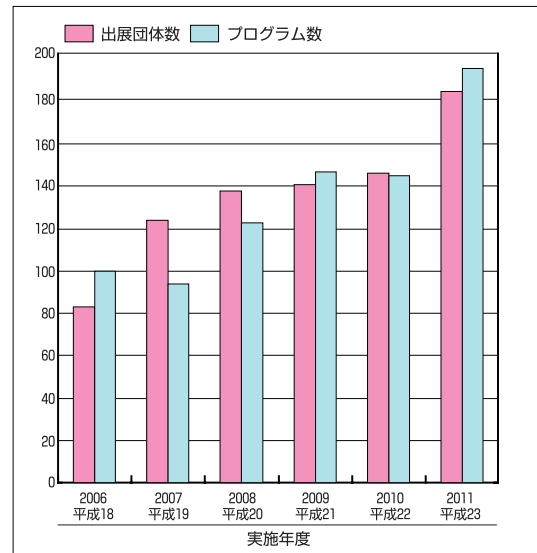
### 属性



### 過去6年間の参加者数



### 過去6年間の出展団体数・プログラム数



## 広報・運営面での主な取り組み

### チラシ、ポスター配布

「親子連れ」「研究者・サイエンスコミュニケーション関係者」「一般」「学校教員」のターゲット別チラシを学校(江東・品川・港の各区を重視)、科学館、図書館、大学・研究機関、各地のサイエンスイベント、JST制作の科学教育誌「Science Window」への折込、JSTイベント等で計約9万枚配布。ポスターは「一般」向けを計約1千枚配布。また初めての試みとして、配達地域指定郵便で港区台場1丁目約2,500世帯を対象に直前広報を実施。

### 媒体への掲載

科学系雑誌、区報、日経23PLUS(東京23区内47万部発行)へイベント情報を掲載するとともに、フジテレビの2番組「プレミアの巣窟」「FNNスーパーニュースWEEKEND」で紹介。プレスリリースも実施(9月27日付)。

【主な露出実績】読売新聞、日刊工業新聞、教育新聞、日経産業新聞、文教ニュース、JSTニュース、東京シーサイドストーリー(産経新聞社)、SYNODOS JOURNAL

### オンライン広報の実施

ニュースリリース配信(10月14日と11月7日の2回)、JST発行メールマガジン6媒体の活用、前回来場された方々への個別アプローチ、公式サイトへのソーシャルプラグインの実装(Twitter、Facebook)、iPhone/Androidアプリ配布等を実施。

### その他運営面での取り組み

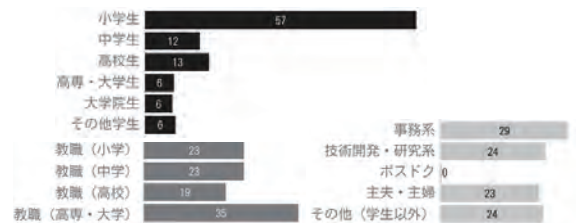
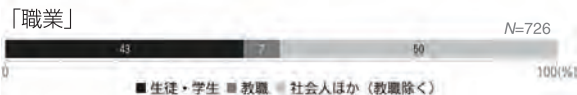
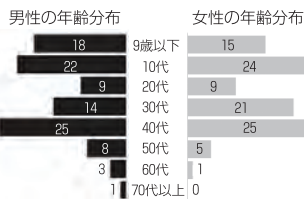
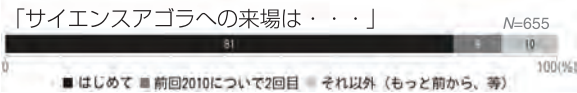
エントリー→詳細登録の二段階公募の実施、ターゲットやテーマごとの会場ゾーニングの設定、シンボルプロムナード公園の活用、11/18(金)開幕シンポジウムのお台場外開催、11/19(土)出展者交流会の開催、サイエンスアゴラ賞の設定(→15ページ参照)、物販コーナーの設置、出展者チラシ設置コーナーの設定(※)、プログラム冊子のデザイン・内容の充実、ライブ中継を含む録画・録音の実施と公開(※)、会場でのWiFiアクセスポイントの設置、「サイエンスアゴラサポーター」アルバイト導入、など。

※詳細はサイエンスアゴラ2011公式ウェブサイト <http://scienceagora.org/> をご参照ください。

## 来場者アンケート結果

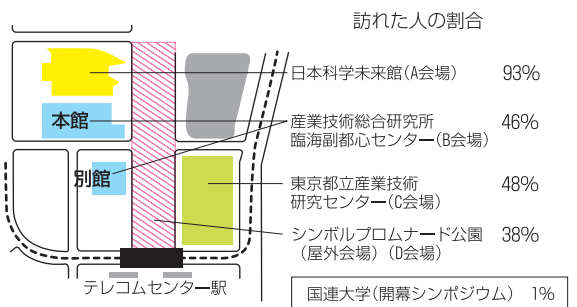
- 紙版  
調査方法：全来場者を対象に受付にてアンケート用紙を配布。会場で回収。 調査期間：2011年11月19日(土)、20日(日) 回答数：746 (対象数 4914、回収率 15.2%)
- オンライン携帯用簡易版&詳細版  
調査方法：オンラインフォームから回答受付。 調査期間：2011年11月19日(土)~24日(木) 回答数：携帯用簡易版2、詳細版17

設問 「あなたについて教えてください。」

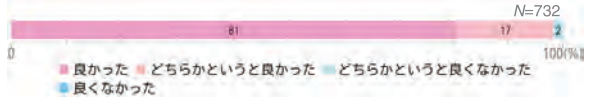


設問 「あなたが訪れた会場等をすべて選んでください。」

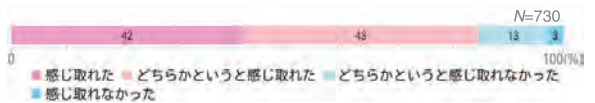
複数回答 N=712



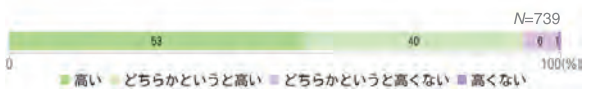
設問 「あなたの今日の感想を教えてください。」



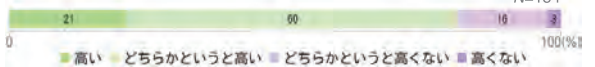
設問 「あなたは、サイエンスアゴラ2011の全体テーマ「新たな科学のタネをまこう-震災からの再生をめざして」の精神がイベント全体から感じ取れましたか？」



設問 「あなたの自然や科学技術への興味や関心の程度をお聞かせください。」



「あえて選ぶとすれば文系」

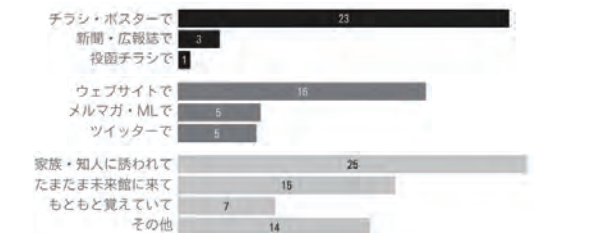


「あえて選ぶとすれば理系」

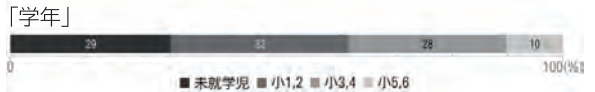


設問 「あなたはサイエンスアゴラ2011をどこで知りましたか？あてはまるものをすべて選んでください。」

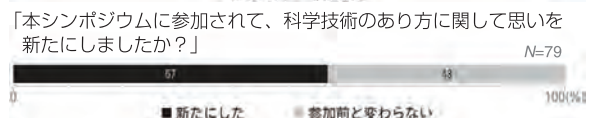
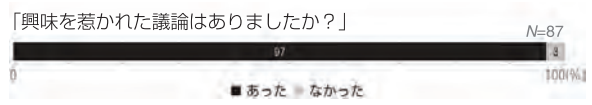
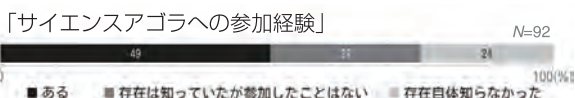
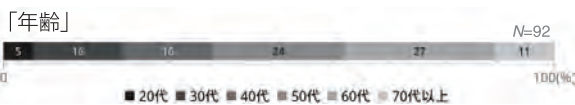
複数回答 N=736



設問 「【小学生以下のお子様をお連れの方のみ】お子様のご様子はいかがでしたか？」



## 開幕シンポジウムでのアンケート結果



## 出展者アンケート結果

### 紙版

調査方法：全出展者を対象にバッジ配布時にアンケート用紙を配布。会場で回収。 調査期間：2011年11月19日（土）、20日（日） 回答数：66

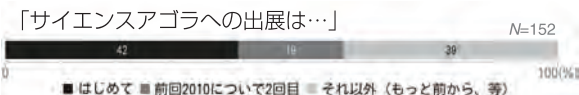
### オンライン携帯用簡易版

調査方法：紙版のフォローアップとしてオンラインフォームから回答受付。 調査期間：2011年11月21日（月）～24日（木） 回答数：58（紙版との重複回答を除く）

### オンライン詳細版

調査方法：オンラインフォームから回答受付。 調査期間：2011年11月28日（月）～12月13日（火） 回答数：141

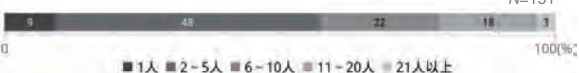
設問「あなたについて教えてください。」



「ご出展主催者の分類として適切なものを1つだけ選んでください。(複数機関の共催でも1つだけをお願いします)」 N=155



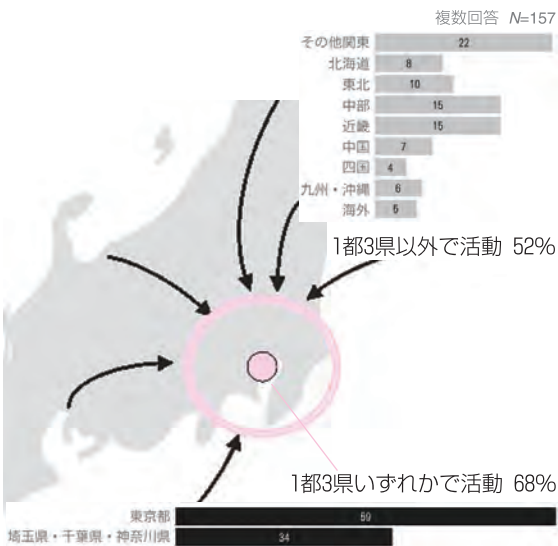
「ご出展に関わった方々の人数を教えてください。--当日実働人数」 N=151



「ご出展に関わった方々の人数を教えてください。--準備含めた全人数」 N=144



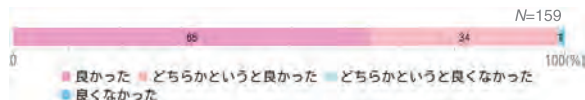
「あなたが普段主に活動する地域をすべて選んでください。」



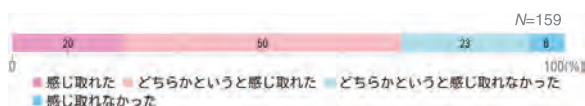
### 次回出展・参加者へのメッセージ

- ☺ 地方で活動する人たちにとって、全国の多様な活動を知り、交流できる貴重な機会です。
- ☺ 多くの人を訪れてくれるイベントであり、広報も十分に行われるので、小さな団体でも積極的に出展すると、たくさんのお会いが待っています。
- ☺ オンラインでつながりのあった方々との直接のつながりを、会場で作れました。
- ☺ Twitter を通じて知っていた人実際に何人も今回のサイエンスアゴラでお会いできました。

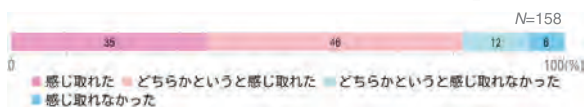
設問「あなたの今日の感想を教えてください。」



設問「あなたは、サイエンスアゴラ2011の全体テーマ「新たな科学のタネをまこう-震災からの再生をめざして」の精神がイベント全体から感じ取れましたか？」

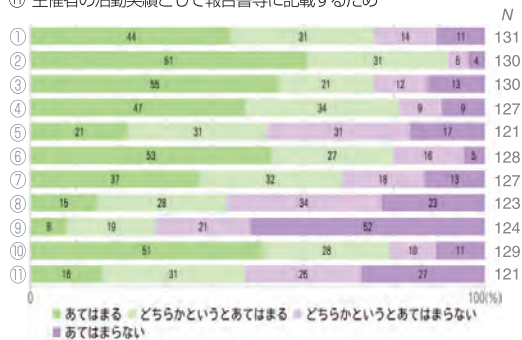


設問「あなたは、今後の活動につながる新しいネットワークを構築できたと感じ取れましたか？」



設問「あなたがサイエンスアゴラ2011に出展した目的・動機を教えてください。」

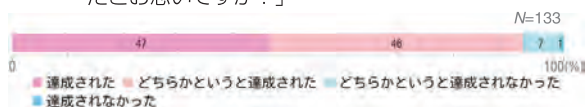
- ① 多様な出展者と出会うため
- ② 多様な来場者と出会うため
- ③ サイエンスを楽しむ・楽しんでもらうため
- ④ サイエンスを学ぶ・学んでもらうため
- ⑤ 震災からの再生について考えたり語り合ったりするため
- ⑥ 広くサイエンスと社会との関係について考えたり語り合ったりするため
- ⑦ サイエンスコミュニケーションのスキルアップ・ノウハウ共有のため
- ⑧ サイエンスコミュニケーション人材の発見・発掘のため
- ⑨ ビジネスにつなげるため
- ⑩ 主催者のぶだんの活動を知ってもらうため
- ⑪ 主催者の活動実績として報告書等に記載するため



その他の目的・動機：「学生達の一般社会人とのコミュニケーション訓練」、「出展することが文化祭みたいで楽しいから」、「1年間の成果を見ていただくため」、「会員の活動機会を増やすため」、「函館で活動する仲間に、発表・交流・情報収集の機会をつくるため」、「全国の科学館を広く知ってもらうため」、「全国の科学館がつながることができるように」

アンケートより抜粋

設問「出展した目的は、振り返ってみてどの程度達成されたとお思いですか？」



・・・その他データやフリーコメントは → 16, 17, 30ページへ

## 開幕シンポジウム

## 「私たちにとって科学技術とは何か～ 震災からの再生をめざして」 OP 〇〇

科学技術の有効活用なくして豊かな生活を築き維持することはできません。しかし、3.11の大震災・原発事故は、科学技術に対する信頼感を揺るがす一大事でした。先行きのわからない不安感を解消し、私たち一人ひとりの科学技術との付き合い方を改めて見直すためには何をすべきなのでしょうか。第4期科学技術基本計画に謳われている科学技術政策への国民参画の促進を実現に移すための方策について論じ合いました。

- 開幕宣言** 中村 道治 (科学技術振興機構理事長)  
**来賓挨拶** 合田 隆史 (文部科学省科学技術・学術政策局長)  
**基調講演1** 「新しい社会のあり方～市民として科学技術とどう向き合えばよいか」  
 鷲田 清一 (前大阪大学総長、大谷大学文学部教授)  
**基調講演2** 「地球環境と人類圏の行くへ」  
 川幡 穂高 (東京大学大気海洋研究所教授)  
**パネル討論** 「震災からの再生をめざして」  
 大西 隆 (日本学術会議会長、東京大学大学院工学系研究科教授)  
 片岡 正俊 (東京都立産業技術研究センター理事長)  
 小林 傳司 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授)  
 最相 葉月 (ノンフィクションライター)  
**コーディネーター** 柳下 正治 (上智大学大学院地球環境学研究所教授)

基調講演で鷲田さんは、現代社会で求められているのは強力なリーダーではなく、全体を見渡し、何か見落としていないかという視点を持つフォロワーが地域コミュニティの中に一人でも多くいる社会をつくるのが大切だと述べました。川幡さんは、現在の地球環境はかつてなかったほどの危機的状況にあり、データ収集を待つ時間的余裕はないと指摘し、将来の技術開発に期待しつつ引き返せる道を残して進むしかないとの警鐘を發しました。パネル討論では、今回の原子力発電所事故は民主主義政権の下で起こった史上最大の事故であり、参考になる先例はないと小林さんは発言し、知恵を出し合ってできることから始めるしかないとの決意を表明しました。兵庫県こころのケアセンターの被災地支援活動を取材中の最相さんからは、顔の見える人からの誠実な語りかけならば信頼感を得られる、科学技術の問題も例外ではないとの発言がありました。大西さんからは、専門家と一般社会との間で科学技術の限界に関する合意に齟齬があったことを双方とも重視していなかったのではないかと、その反省を学術会議の活動に反映させていく必要があると述べました。片岡さんは、地方自治体の工業系試験研究機関の連携による被災県の支援状況を紹介し、ものづくりの底力が日本再生の鍵を握っていると力説されました。討論では少なくとも2つの同意が得られました。市民が科学技術を使いこなす社会を実現するためには、科学とは特別なものではなく、ふだんの生活で論理的、批判的に考えることも科学であるとの認識が大切だということと、社会として解決すべきことは何か、それに対して科学技術はどのような貢献ができるかを真正面から論じ合う必要があるということです。



## 総括セッション

## 「新たな科学のタネのまき方」 Mb-53 〇〇

- パネリスト** 榎木 英介 (サイエンス・サポート・アソシエーション代表)  
 岡田 努 (福島大学准教授、ふくしまサイエンスびらっとフォーム事務局)  
 平川 秀幸 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)  
 横山 広美 (東京大学大学院理学系研究科准教授)  
 長神 風二 (東北大学脳科学グローバルCOE特任准教授)  
 元村 有希子 (毎日新聞社科学環境部副部長)  
**モデレーター** 縣 秀彦 (国立天文台准教授・普及室長)  
**企画委員会セッション報告** 原田 良信 (サイエンスアゴラ2011企画委員、放射線医学総合研究所広報課長)



前日の企画委員会セッション(→10ページ)などを踏まえ、科学コミュニケーションの今後のあり方が議論されました。被災地に拠点を置く岡田さんと長神さんからは、現地の窮状に沿った支援の必要性等の訴えがありました。他のパネリストも、自分たちが属すコミュニティやネットワークがうまく機能しなかった点を自覚しつつ、新たな展開を検討中とのことです。行政や科学技術者コミュニティの対応が不十分な中、市民の間では独自のネットワークが形成されつつあります。最後に縣さんから、日本サイエンスコミュニケーション協会設立に関する案内がありました。様々なネットワークを繋ぐ動きが始動しそうな予感を感じさせるセッションでした。



## 共催機関企画

独立行政法人産業技術総合研究所

### 科学・技術を体験しよう ～産総研ミニキャラバン～ Ma-55

下村正樹さん（独立行政法人産業技術総合研究所 広報部）

サイエンスアゴラには科学コミュニケーションに携わる方も多く参加されます。そういう方々のご意見をいただくことで、コンテンツの質やスタッフのスキルの向上が見込めます。今回はメインテーマを意識し、日本と周りの海底の地形がわかる3D地形図や、液状化現象を実感できる地盤液状化現象モデル「エキジョッカー」などを出展しました。スタッフには、研究機関である産総研の特徴を出すために、展示内容に関係した研究員を加えました。今年は昨年よりもゆったりめの配置にしたので、来場者の方々には科学・技術にたっぷり触れて楽しんでいただけたと思います。

企画委員会企画「アゴラステージ：中高生と語り合う再生可能エネルギー」にもご協力いただきました。→ 10ページへ



地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター

### 都産技研体験見学ツアー ～ものづくりの世界に触れてみよう～ Ta-21

小山元子さん（地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター経営企画部 広報室長）

東京都立産業技術研究センターは、サイエンスアゴラ2011に会場を提供しました。ロビー、イノベーションハブ、講堂等をイベントに利用。また、東京テレポート駅と都産技研の間にシャトルバスを運行し、昼休みの食堂の営業を行い、多くの方にご利用いただきました。

さらに、「都産技研体験見学ツアー～ものづくりの世界を体験しよう～」では、音響試験設備（残響室、半無響室）、産業用ロボット、デザインギャラリー、X線CT、高電圧試験室を見学コースとし、研究員が装置を動かしながら説明を行いました。特に高電圧放電、音カメラ、残響室など、体験的な見学場所が好評でした。見学受付場所付近には、サーモメータ、サーバイメータを置き、測定体験もしていただきました。

企画委員会企画「アゴラステージ：ものづくりマイスター」にもご協力いただきました。→ 10ページへ



国際研究交流大学村

### 日本の魅力、再発信！～留学生、研究者とともに語ろう～ Mb-04

山崎功さん（日本科学未来館 科学コミュニケーター）

震災後、風評被害によって海外からの観光客が減少しました。このような状況を克服するための発信方法について考察しました。産総研から2名の研究者が自然エネルギーの技術について紹介した後、留学生14名を含む合計27名による国際色豊かなディスカッションがあり、「海外に伝えたい日本人、科学・技術の魅力」等について話し合いました。留学生からは「ブログや人づてにもっと日本の魅力を伝えたい」等の情報発信方法が出ました。海外目線で見た日本の魅力（科学・技術、文化、礼儀、勤勉さ等）の意見もあり、日本人が普段あまり意識しない魅力を再発見できました。このワークショップを通じて、日本の魅力を一人ひとりが再発見し、内外へ発信していく機会となればと願っています。



日本学術会議

### 科学・技術でわかること、わからないこと Mb-07

話題提供 柴田 徳思（日本原子力研究開発機構特別研究員）「原子力と放射線のリテラシー」

本田 孔士（京都大学名誉教授）「健康と医学のリテラシー」

パネリスト 毛利 衛（日本科学未来館館長）

木村 茂光（東京学芸大学教育学部教授）

北原 和夫（東京理科大学大学院科学教育研究科教授）

司会 室伏 きみ子（お茶の水女子大学理学部教授）

柴田さんからは放射線に関する基本的事項と一般の人にとってわかりにくい点に関するお話、本田さんからは健康・医療、特に予防接種に関するリスクの認識に関するお話がありました。共通する見解は、人は自分にとってのリスクがゼロか100かにとらわれがちで、社会全体から見た利点と、個人にとっての利点をどう考えるかが大切であるというものでした。パネル討論では、科学・技術は絶対ではないという、専門家にとっては当たり前のことが、世間、マスメディアなどでは誤解されがちだとの意見が出ました。そうした誤解を解くには、地道な対話を重ねていくことから始めるしかないのかもしれませんが、科学コミュニケーションの重要性が再確認されたセッションでした。



## 企画委員会企画

危ないってどういうこと？—生活の中のリスクと科学リテラシー Mb-01 

話題提供 原田 良信 (放射線医学総合研究所広報課長) 「放射線影響に関する情報発信とリスクコミュニケーション」  
 小島 正美 (毎日新聞社生活報道部編集委員) 「リスク報道のゆがみは、なぜ生じるか」  
 楠見 孝 (京都大学大学院教育学研究科教授) 「リスク認知と科学リテラシー、批判的思考」  
 コメンテーター 阿南 久 (全国消費者団体連絡会事務局長)  
 菊池 誠 (大阪大学サイバーメディアセンター教授)  
 司会 蒲生 恵美 (日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会食生活特別委員会副委員長)



私たちの生活は様々なリスクに取り巻かれています。一般に言うリスクは、危険の大きさとそれが起こる確率の掛け算で、ゼロか100かということはありません。ところが個人にとってのリスクはゼロか100かで認識をされがちです。本セッションでは、放射線をめぐるコミュニケーション、リスクをめぐる報道、リスクを認識する上で科学リテラシーは有効なのかに関する話題提供をもとに論じ合いました。リスクという概念を正しく理解すると、逆にどの程度のリスクなら受け入れるかという点で、科学リテラシー、科学コミュニケーションが重要になります。それについては、正確で客観的な情報を基に個人として判断できる市民が増えることも重要です。正確な情報が入手できる環境を整える必要もあるでしょう。誰もが敏感になっているときこそ、客観的な情報を発信したり集めることで社会全体の科学リテラシーを高める機会でもあるとの共通認識が得られたように思います。

## アゴラステージ

研究者、技術者、経営者の素顔に触れ、科学コミュニケーターの妙技を堪能してもらうために、日本科学未来館1階特設ステージにおいて、以下の3つの企画を実施しました。

## ■中高生と語り合う再生可能エネルギー Mb-25

3名の再生可能エネルギー研究者に研究内容(オイル生成藻類、地熱発電、太陽光発電)の発表をしていただき、中高生からの質問に答えていただきました。生徒たちの関心は高く、積極的な質問が飛び交いました。

登壇者 渡邊 信 (筑波大学教授)  
 安川 香澄 (産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門主任研究員)  
 高島 工 (産業技術総合研究所太陽光発電工学研究センター主任研究員)  
 参加校 江東区立第三亀戸中学校、お茶の水女子大学附属中学校、  
 埼玉県立川越工業高等学校

研究現場で中心となる研究員にこそアウトリーチ活動が重要と考え、あえて中堅どころの研究員(太陽光発電と地熱発電)を、中高生と語り合う企画委員会企画の登壇者に推薦しました。中高生、研究員双方にとって有意義だったと思います。

(下村正樹さん:産総研広報部)

## ■ものづくりマイスター Mb-26

独自の技術を持つ3つの企業の経営者と都立産業技術研究センターの研究者とのトークを行いました。3社はいずれも生物資源利用のものづくりを行っており、二酸化炭素削減問題について考慮した選択です。ミドリムシの大量培養技術は、日本古来の進んだ発酵技術が成功の鍵のひとつであったこと、プレス成型の難しい天然素材(サスティーモ)のプレスは、「素材の声を聞く」という職人的な感覚と常に課題を考え続ける姿勢が成功の鍵であったこと、300年以上の歴史を持つ経木を使うことは、森林の維持・更新の点からも優れていることなど、日本の特質を活かす技術的なお話を伺えました。トークのテンポも良く、立ち見客も多く盛り上がりを見せました。

(小山元子さん:都産技研経営企画部広報室)

登壇者 出雲 充 (株式会社ユーグレナ代表取締役)  
 荒川 博史 (ヤマト化工株式会社取締役社長)  
 信田 喜代子 (株式会社木具定商店代表取締役社長)  
 コーディネーター 清水 綾、佐々木 直理、川口 雅弘、小山 元子 (以上、東京都立産業技術研究センター)

## ■サイエンスショー大集合 Mb-75

日本を代表するサイエンスショーの名手3人が登場し、その妙技を披露してくれました。それぞれ、音が出る仕組み、鉄でできた船が浮き、野菜が水に沈む理由(比重と浮力)、箱の中に入れたヘリコプターが離陸したときの箱の重さ(重力と質量)などの実験から、身近な不思議に迫りました。

月僧 秀弥 (福井県坂井市立三国中学校教諭) 「あれこれ音(おと)っと」  
 横山 一郎 (湘南学園中学校高等学校教諭) 「鉄の船が浮かぶわけ」  
 飛田 賀光 (日立科学あそび隊) 「重さの不思議・体積の不思議」



▲たくさんの質問で盛り上がりました。



▲日本を支える開発技術のお話をした。



▲「あれこれ音(おと)っと」



▲「鉄の船が浮かぶわけ」



▲「重さの不思議・体積の不思議」

JST企画

“FUKUSHIMA”からのイマジネーション Mb-51 〇〇

パネリスト 中西 友子（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）  
 安 俊弘（カリフォルニア大学バークレー校教授）  
 岩田 修一（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）  
 コーディネーター 保坂 直紀（読売新聞科学部次長）



3.11後の福島を再建するにあたって科学技術をどう活用すべきかを念頭に議論は進みました。まず、岩田さんが、産業革命も情報革命も歴史を動かしたのは科学技術であり、それにとまなう負の部分の転換には住民の参加意識が必要だったことなどを示しました。安さんはエンジニアという立場から、今回の事故を整理して解決策を提示していくことが、国際社会の一員たる日本にとって必要なことだとの認識を示しました。中西さんは、科学への信頼と不信、原子力を含む科学技術教育の反省点を指摘しました。会場との間では、除染の際の工学者の役割・社会の役割について、科学者から社会への知識の還元、さらにはユニークボイスという考え方で議論が及びました。

政策形成における科学的助言のあり方 Mb-52 〇〇

研究開発戦略センター

今後の日本における科学的助言のあり方に関する議論を行いました。企画側からの、近年の動向と、日本独自の行動規範の試案に関する説明に続き、議論が交わされました。政策形成における科学者やメディア等の責任の自覚、さらには、科学技術と社会との関わりに関する教育の重要性が指摘されました。このテーマについては、引き続き科学者コミュニティ等で議論が深められることが期待されます。



『まち』で取り組む節電・省エネ対策で低炭素社会へ Mb-00

低炭素社会戦略センター

低炭素社会戦略センター（LCS）は、2011年夏、プラチナ構想ネットワークと協働し、自治体の緊急連絡網を使用して各家庭に節電を呼び掛ける「停電予防連絡ネットワーク」を構築しました。シンポジウムでは、野村総合研究所顧問の増田寛也さん、三菱電機住環境研究開発センター長の川口進さん、自治体の代表者等の講演を交え、研究統括の松橋がこれまでの取り組みの成果を報告しました。第2会場では、33自治体の節電・省エネ対策や低炭素社会に向けた取組みをポスターで紹介し、活発な情報交換が行われました。



震災とこれからのエネルギー教育について考える Mb-09

理科教育支援センター

前半のサイエンスカフェでは、被災地の教員を迎え、理科教師として何が出来るかとの問いかけのなかで、学校で子どもの命を守る使命の重さや、地域と連携した日ごろの備えの重要性、身を守るための理科知識の必要性が論議されました。後半のシンポジウムでは、環境・エネルギー研究開発分野の状況、科学技術政策、エネルギー環境教育の現状とあり方、学校での実践事例が紹介され、エネルギーについての正しい理解と判断力を持つことの重要性、子どもたちが自分の力で未来を変えていこうと考えていけるように教育が果たす役割など、教育への期待が語られました。



それって本当？— 3/11大震災をテーマに— Mb-57

理数学習支援部

大津波をテーマに、中高生に考察のための材料（科学的情報）を与えながら議論させ、科学的な情報を正しく理解し活用することの大切さと難しさを体感してもらうという企画です。JST「サイエンス・リーダーズ・キャンプ」事業に参加した現役の理科の先生を講師にお招きしました。引率の先生からは、「理科は好きだけれど勉強チックになると拒否反応を示す生徒たちが楽しんでくれた」、講師からは、「生徒に考えさせることの面白さと大切さを再認識できたこと、他の先生方との交流を持てたことが大きな収穫だった」などの感想をいただきました。



サイエンスクライシス ～情報のウラオモテ～ Mb-59

日本科学未来館

3.11のような緊急事態に再び直面した際に正しく行動するため、「情報発信者の特性を知り」「情報の授受のあり方について考える」ことを目的に、ワークショップを実施しました。情報発信者として、新聞、テレビ、専門家、週刊誌、ツイッターの5種類を取り上げ、ロールプレイングの手法を使ってそれぞれの特徴を実感し、利点や注意点などを議論、発表しました。参加者の感想からは、本企画が「今後の情報の授受について考える」きっかけとなったことがうかがえました。



## サイエンスアゴラ賞 受賞企画

あっ 捨てないで！ それで理科遊びをしよう！ Ma-17

雨谷俊彦さん（蔵前理科教室ふしぎ不思議）

このたびは栄えあるサイエンスアゴラ賞を頂き有難うございました。私共は（社）蔵前工業会（東京工業大学の同窓会）内の一組織である「蔵前理科教室ふしぎ不思議」（略称：くらりか）に属しています。2005年に子供達の理科離れに危機感を持った会員有志が、理科の楽しさ、面白さを知ってもらうべく理科教室活動をシニアボランティアとして開始しました。

以後、教室では身近な材料で工作と実験を行い、生徒全員が達成感を味わえるように生徒5~6人に1人の助手を配って行っています。主に首都圏や大阪地域で中心に活動し、今年度末には累計で1,065教室、27,000名の児童・生徒に対して行う予定です。

今回の東日本大震災の被災地域で役に立てる事を何かをしたいと多くの人が思っています。私共も被災地域での理科教室の開催を検討しましたが、状況的に厳しい中、サイエンスアゴラの企画を知り応募しました。テーマとしては身近な材料で工作と実験をして、更に説明を1つ加えることで人間の素晴らしさに気が付いてもらうという観点で、くらりかのメニューから「笛と音」を選び、会場の雰囲気や考慮して行いました。会場では家庭からごみとして出されるペットボトル、牛乳パック、ストローを用いて紙ホイッスルやストロー笛を作り、鳴らし、なぜ音が発生するかを学んでもらう教室としました。中学生以上には聴覚のメカニズムも説明し、人間の不思議な能力・強さを再認識してもらいました。またクラドニの装置やクントの装置で膜振動や音を可視化したものを見て、それらの美しさを知ってもらいました。私共はいずれ被災地でも同様の教室を開き、今回の参加者以上の感動を与えたいと思っています。

人獣共通感染症の克服を目指して Ma-35

伊藤公人さん（北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 准教授）

本企画では、インフルエンザ、エボラ出血熱、アフリカ眠り病などの人獣共通感染症について、大人から子供まで楽しく学べるような体験型展示を目指しました。ウイルスや細菌というと、小さなお子さんを連れた一般の来場者は少しビクミに感じてしまうことがあるようです。来場者が正しい知識をできるだけ明るく学べるように、実際の研究室を模したブースをつくり、パネル解説、顕微鏡観察、実験体験を通して研究をアウトリーチすることを展示のテーマとしました。

パネル解説では、自然界で野生動物と共生している微生物がどうして人に病気を引き起こすのか、また、その予防にはこれからどんな研究が必要であり、いま北海道大学がどのように研究に取り組んでいるかを8人の研究者がマンツーマンで来場者に説明しました。

顕微鏡では、蚊やツェツェバエなどの吸血昆虫の標本を観察し、マラリアやアフリカ眠り病といった節足動物により動物から人に運ばれる感染症を解説しました。また、インフルエンザウイルスが感染した細胞を高倍率の顕微鏡で観察することにより、ウイルスが増殖する仕組みやワクチンや治療薬で病気が治る仕組みの一端を紹介しました。

実験体験では、マイクロピペット・遠心機・安全キャビネット・オートクレーブ・防護服といった、感染症を安全に研究するために工夫された最新機器をブースに持ち込み、実験の基本操作を来場者に体験してもらいました。

特製ウイルスストラップの助けもあり、二日間の展示で合計480枚のアンケートを回収することができました。来場者には顕微鏡観察、遠心分離、防護服試着が人気でした。本出展にあたっては、順天堂大学医学部、大分大学医学部、東京大学医科学研究所、帯広畜産大学原虫病研究センター、国立感染症研究所、JSTイノベーションプラザ北海道の関係者の皆様に多大なご協力を頂きました。心より御礼申し上げます。

spffふくしま支援プロジェクト ひろげよう！科学のわ！ Ma-40

岡田努さん（福島大学准教授・spff事務局）

ふくしまサイエンスぶらっとフォーム（spff）は福島大学を事務局に福島県内の産官学民による科学コミュニケーション活動に取り組む組織で30を超える異業種の施設（県研究施設、科学館、企業、教員等）が様々な方法で連携し県内のあらゆる地域で科学コミュニケーション活動に取り組もうと「ふくしまはどこでもかがく！」を合言葉に活動しています。

しかし3.11以降は状況が一変しました。本県は地震と津波被害に加え原子力発電所の事故により全県民が放射線に対する不安の中での生活を余儀なくされました。spffの参加機関では施設は閉館、震災対応に追われ、予定していた活動も中止せざるを得ませんでした。震災の2~3週間後、spffの参加機関から「spffが避難所でできることがあるのでは？」との声をいただき、その後協力して避難所訪問を始めました。全国からも産総研関西センターを筆頭に科学ボランティアの支援を頂き、GWまで県内の避難所、学校や再オープンした科学館等20数か所をまわりました。このような非常事態に迅速に対応できたことはspffにとっての誇りです。今年のサイエンスアゴラのテーマが「新たな科学のタネをまこうー震災からの再生をめざして」ということで、私たちはspffの震災後の活動紹介と、意外と知られていない学校の理科授業の課題、科学館の状況、そして本県の実態を来場者の皆様へ対話を通して伝えることにしました。その結果オリジナル福島県付箋紙になんと500以上の応援メッセージを頂きました。一人ひとりと丁寧な対話を通して何かを伝える、共有するというのがコミュニケーションの基本だと改めて実感しました。今回の受賞、全国の皆様からの支援の声、そしてなによりspffのメンバー同士の理解がより深まったことを本当に嬉しく思います。アゴラ関係者の皆様にお礼申し上げます。



**ロボットのいる街角を目指して** Ma-54

神田崇行さん (株式会社国際電気通信基礎技術研究所 知能ロボティクス研究所(ATR IRC))

私たちは、京都の学研都市にあるATRという研究所で、ロボットが人間のパートナーになるための研究開発を進めている研究者です。今回のサイエンスアゴラにロボットを出展しようと思立った理由は、主に2つです。1つは、子供たちに科学の楽しさを、ロボットと実際にふれあってもらうことで体験してもらいたいと思ったこと。もう1つは、私たちが目指している、ロボットと人間がお互いに助け合って生活する将来のイメージを、皆さんに直接肌で感じてほしいと思ったことです。そのために、今回私たちは、街角で困っている時に助けてくれる警備員さんをイメージして、話しかけやすく歩いてくれるロボットを準備しました。あなたが道に迷った時にずっと寄り添って、もしあなたが話しかけたらちゃんと道を教えてくれる。そんなロボットが将来街角で歩いているなら、ちょっと嬉しいですね。



とはいえ、ロボットを実際に動かすのはまだまだ大変です。京都から東京まで移動する間にロボットの調子が悪くなってしまったり、いざ到着すると予想していた環境とは少し違っていたり。問題を解決してももう大丈夫と思って最後に確認したら、新しく別の問題が出てしまう、といったことも。それでも、皆さんにロボットと実際に触れ合ってもらおうと、研究者の皆さんが未来館の中で直前まで調整作業を頑張ったことで、当日は無事にロボットの展示を皆さんに体験してもらうことができました。特に小さなお子さんたちには、自分たちと同じぐらいの大きさのロボットを見ることが初めてだったようで、とても楽しくロボットと触れ合ってもらうことが出来たようです。これからも、人と関わりあうロボットの研究開発を通じて、少しでも皆さんに科学の楽しさを伝えることができれば良いな、と思っています。

**女性研究者最前線！～資生堂 女性研究者サイエンスグラント～** Ma-59

蓑田裕美さん (株式会社資生堂 学術室、国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター)

「自ら道を切り拓き活躍する女性科学者がいることを知ってほしい」

これがサイエンスアゴラ出展を思い立ったきっかけです。

日本の科学界における女性研究者の比率が世界最下位クラスであることをご存知でしょうか。「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」ではその格差解消の一助となるよう、指導的研究者を目指す女性科学者に毎年総額1,000万円の研究助成を行なっています。女性研究者支援を通じて、今後さらに日本の科学技術の進展に寄与するためには、第一線で活躍している女性科学者の姿を市民の皆さんに知っていただくことが重要なステップであると考え、サイエンスアゴラ2011への出展を決めました。

歴代受賞者の研究ライフを紹介する展示と、受賞科学者をゲストに招いたサイエンスカフェ形式のトークイベント、どちらも数千人の来場者の皆さまとFace to Faceでお話できる貴重な機会ですので、インターネットや書籍のようなメディアでは得られない“ライブ感のある科学コミュニケーション”を目指しました。当日は予想以上に男性の来場者にもお立ち寄りいただき、「企業が事業分野に関連しない科学全般を支援しているとは知らなかった、心強い」などのコメントや貴重なフィードバックを沢山いただきました。



企画運営の実務担当者はサイエンスコミュニケーター1名でしたが、ゲスト受賞者の細谷紀子先生をはじめ多数の受賞者にご協力いただき、当日スタッフもみな社員ボランティアが務めました。こうして一丸となり「女性科学者を応援したい、日本の科学界を盛り上げたい」という同じ想いを持つことこそが支援の第一歩であり、このたびのサイエンスアゴラ賞受賞に繋がったのだと思います。サイエンスアゴラが、科学を切り口としたコミュニケーションの場として、今後益々活用され発展を遂げることを強く願っています。

**「きみたちの魔法ー化学『新』発見展** Ma-99

太田暉人さん (公益社団法人日本化学会 前常務理事)

2011年は国連が定めた世界化学年です。全国各地の科学館には化学・材料をテーマにした展示が少ないことから、日本化学会が中心になって化学・材料をテーマにした展示を開発し、展示する試みをするようになりました。

一言で化学を展示するといっても容易ではありません。通常の化学反応の展示には困難が伴います。そこで、温度や光で可逆的に変化する材料に焦点をあてることにしました。そうした材料のメーカーに協力のお声がけをしたところ、幸いにも声をかけたほとんどの企業から協力を得ることができました。さらに日本化学工業協会加盟の企業からも協力の申し出が頂きました。



展示制作にあたっては、化学の不思議さ、面白さをどのようにして印象づけるかを、メンバーの間で議論しました。特に、参加者が直接手を触れられる体験型とすることを基本としつつ、耐久性と安全性をいかに確保するか、また個々の展示に係員が張り付いていない状況下で、参加者にこちらが期待する操作をさせるにはどうすればよいかを最も工夫を要するところでした。

また、体験展示に加えて、化学が如何に我々の現在の生活に密接に結びついているか、そして我々の将来を担っているかをイメージしてもらえるチャートも作成しました。静止画の上に映像を投影する手法で、化学の役割、リサイクル、将来の姿などを現したものです。会場の一角に大型ディスプレイを置き、ミクロの世界の写真をスライドで映し出す工夫もしました。

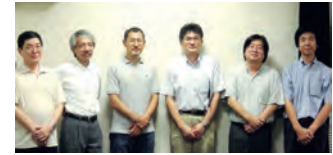
おかげさまでみなさまから好評を博し、賞までいただき、苦労したかいがあったと喜んでます。



## 東日本大震災後の海洋汚染の広がりとその影響 IMb-02

市川洋さん（独立行政法人海洋研究開発機構）

東日本大震災後の海洋汚染の広がりに対し、4月14日に開催された「震災にともなう海洋汚染に関する相談会」で日本海洋学会の100名以上の有志が「海洋科学専門家は何をすべきか」などを議論しました。その結果を取りまとめた提案を受けて、翌4月15日の日本海洋学会幹事会で震災対応ワーキング・グループ（以下、WG）が設立されました。WGは、「福島第一原子力発電所の事故に起因する海洋汚染モニタリングと観測に関する提言」などの提言、提案を発表するとともに、解説記事や関連情報などをウェブ公開してきました。その活動の一環として、サイエンスアゴラ2011でシンポジウムを開催することを企画しました。内容としては、政府のデータ公開が遅れたことや、TV番組などで専門家が市民の抱く疑問に対し分かり易く答えがなかった状況を考慮して、専門家と非専門家が、直接、双方向での対話をして相互理解を深めることを重視して、4名の専門家と2名の非専門家にパネリストを依頼し、事前にメールで意見交換をおこないました。シンポジウムでは、最初に、海洋学会会員が、何が分かっている、何が分かっているのか、の説明に主眼を置いた解説をおこないました。その後、二人の非専門家から提起された「汚染について住民が抱いている先の見えない不安」と「緊急時に専門家として、思ったこと、やったこと」の各々について、専門家が答えました。フロアからの5件の質問を加え、予定していた90分間が非常に短く感じるほど、充実した内容となりました。会場受付で配布したプログラムは122部でした。回収した20部のアンケート回答の多くで得た好意的な評価と、サイエンスアゴラ賞サイエンス対話部門の受賞を励みとして、私たちは、今後も非専門家との対話を進める予定です。



## 経済学×脳科学 質問から説く「あなたの好み」？ Tb-03

内田麻理香さん・水島希さん（東京大学情報学環 佐倉研究室）

誰しも自分の興味のある分野にはアンテナをはるが、それ以外には縁遠くなりがちだ。サイエンスアゴラに足を運ぶお客さんにとっては、科学はなじみ深い内容であろう。しかし経済学はどうだろうか？あるいは逆に、ふだん経済学に関心が高い人は、科学に接する機会があるだろうか？「『経済学×脳科学』質問で読み解くあなたの『好み』？」は異分野同士をかけあわせたイベントである。異分野と思われるが、経済学と脳科学には「神経経済学」という活発な学際領域があり、主催である文部科学省脳科学研究戦略推進プログラムでも研究が進んでいる。

脳科学と経済学、縁が遠いほうの分野についても面白さを伝えるにはどうしたらよいか？そこで、参加型のイベントにし、さらにエンターテインメント性を重視することにした。

登壇者の大竹文雄氏には「経済学者」田中沙織氏には白衣を着た「脳科学者」そして佐倉統氏には進行と役をふり、コント風のシナリオを用意した。

参加型の仕掛けとして、アンサーパッドという質問回答用機器を用意した。例えば「どちらを選ぶ？(A)100万円が11%、はずれが89%(B)500万円が10%、はずれが90%」という質問に、参加者が手元のアンサーパッドで(A)か(B)の回答を選び、ボタンを押す。すると、全員の回答が集計され、スクリーンに表示されるという仕組みである。

当日、このアンサーパッドは大活躍し、お客さんは自分の答えのゆくえに興味津々で、画面に注目していた。さらにその回答から読み解かれる自分の「好み・傾向」についての解説に聞き入った。フロアからの質問が活発だったのも印象的である。

この経済学と脳科学のコラボレーションによる知的エンターテインメント。サイエンスアゴラ賞・対話部門を受賞したのは、参加者をはじめ、関係者の皆様のおかげである。この場を借りて深くお礼を申し上げたい。



## 若手サイエンスコミュニケーター進路相談&交流会 Sb-10

熊谷現さん（ウィークエンド・カフェ・サイエンス (WEcafe) 事務局）

「サイエンスコミュニケーターとして、持続的に、自立して活動するにはどうすればよいか？」これが、今回の企画を実施するに至った問題意識です。

私たちWEcafe事務局は、普段は、月一回程度の頻度でサイエンス・カフェを開催している団体です。一般財団法人 武田計測先端財団の支援をいただきながら、国立科学博物館の認定サイエンスコミュニケーターを中心に、20代の大学院生・社会人がボランティアで企画・運営をしています。

メンバーの中には、いずれは独立してサイエンスコミュニケーターとして稼いでいきたい、と考えている人もいます。ただ、いわゆる「サイエンスコミュニケーター」のキャリアモデルとなる方はほとんどいらっしゃらないため、どのような道筋を描けばよいか分からない、という現状がありました。

そこで今回の企画では、様々な場所でサイエンスコミュニケーターとして活動を始めた若手の方を登壇者として呼び出し、パネルディスカッションを実施することといたしました。今、まさに奮闘している方が何を考え、どう行動しているのか意見交換をすることで、道を切り拓くヒントが見えてくるのではと考えたからです。

当日は大雨にもかかわらず、40名以上の方にご参加いただきました。その後の希望者のみの交流会にも17名の方にご参加いただき、参加された方のつながりづくりの場ともなれたと感じています。

当日の議論では、「非営利活動の意義を認めてもらうためには、評価軸をこちらが提示する必要がある」「単年度の国の補助金だけでは、利益を出せず持続的な活動が難しい」「職能であると認識して、個々の職場で活躍することを目指しては」など、様々な意見が出ました。今回のシンポジウムを踏まえ、今後も、悩み、試行錯誤を続けながら、行動をしていきたいと考えています。





特別賞



**ロボット楽団コンサート ～科学はどこまで音楽に近づけるか～** [Ma-57] [Mb-27] [Mb-76]

幸田晃さん（鹿児島工業高等専門学校 教授）

当初ロボット楽団は「ロボットで人間の伴奏は可能か？」という発想でスタートしました。しかし演奏がさまになってきて周囲の方々の反応を見ると「どうもこれは理科離れ対策に使えそうだ！」ということになり、音楽とサイエンスを合体させた新しいエンタテインメントとして今日に至っています。ところで演奏ロボットは世の中であまりメジャーな存在ではありません。高専ロボコンのようなコンテストもありません。そんな時サイエンスアゴラを見つけ、皆さんに見てもらおう絶好の機会と思い参加させていただいたのです。

ロボット楽団のコンセプトは「見て楽しいステージ」です。音楽をきちんと演奏することは必須です。音楽が始まると各ロボットがザワザワ動き出し、まるで遊園地のようなステージを目指しています。個人で頑張っているのになかなか到達できていませんが。加えるにロボットにはカバーを付けず、動きの仕組みを見せて興味を持ってもらい、素人の方にもわかるようなローテクを使い、「私にもできるかも」と思っただけできれば幸いです。ちなみに私の専門はコンピュータの音声信号処理であり、ロボット製作は全てゼロからのスタートです。ですのでロボット技術のハイテクを使えと言われても無理かもしれません。今回参加させて頂き、出展者皆さんが本気になってサイエンスをエンタテインメントとして伝えようとしているのに感動しました。私も勿論本気なのですが多種多様な分野で皆さんが頑張っておられるのを見ると、「日本の底力」を垣間見ているような気がいたしました。



来場者特別賞



**『えれめんトランプ』 元素周期表カードゲームで対戦！** [Ma-01]

梶井文子さん（株式会社化学同人）

今回も昨年同様、元素周期表同好会として、科学に興味をもってもらえるようなコンテンツを提供する理工系出版社という立場から参加させていただいている。科学の世界への入口として、元素はちょうどよい題材であり、これをきっかけに科学や科学書に興味を広げていてもらいたいとの思いからである。

昨年は『えれめんトランプ』の原型はあったものの、まったく1からのスタートであった。考案者を交え、「カードの見栄え」「ルールのわかりやすさ」「説明のしやすさ」など、さまざまな要素を検討しながら、カードをつくりあげていく過程は、科学書をつくる編集プロセスとまったく変わらない。そんな昨年とは違い、今年は『えれめんトランプ』がすでに完成していたため、少し余裕をもって取り組めた（とはいえ、別企画『元素検定』を並行して準備していたため、大変だったわけである）。

おかげ様で昨年の『えれめんトランプ』ブースは大変な賑わいであった。それ以上に盛り上げたいとの思いもあり、学びの要素を取り入れた簡単なミニゲームなども用意していたが、結局、オーソドックスな『えれめんトランプ』が1番面白かったようである。

今回350名ほどの方に体験してもらったが、中にはリピーターや昨年来てくれた高校生の姿もあった。年齢も幅広く、小学生以下の子どもから、70過ぎのおじいさんまでが一緒に楽しんでいる様子に、この企画に携わった者として感動すら覚えた。『えれめんトランプ』が子どもたちの知的好奇心を刺激し、科学を楽しむ心を育てる「種」となってもらえたらと思う。

ほかの出展者との交流という意味でも、サイエンスアゴラは非常に有益な学びの場となった。これからもこのような機会があれば、積極的に参加していきたい。



来場者人気投票結果

- 第1位 38票 『えれめんトランプ』 元素周期表カードゲームで対戦！ [Ma-01]
- 第2位 26票 波のちから [Pa-05]
- 第3位 25票 ジャンプロボットを作ろう [Ta-01]
- 25票 空を飛べたら [Pa-01]
- 第5位 24票 あっ 捨てないで！ それで理科遊びをしよう！ [Ma-17]
- 24票 かがく縁日パートIV & Let's理科読 [Ma-27]
- 第7位 19票 マッチ棒ロケットを飛ばそう！ [Pa-06]
- 第8位 18票 理科がどんどん好きになる！ 天びんでこの原理を体験学習 [Ma-18]
- 第9位 17票 世界化学年 Catalysis Park 2011 [Ta-05]
- 第10位 15票 物質の三態に関する実験 [Ma-31]

投票総数 577票、うち有効票数 572票

サイエンスアゴラ賞について

サイエンスアゴラ2011では初めての試みとして「サイエンスアゴラ賞」を設定して、企画内容の向上や科学コミュニケーション理念の促進を図りました。

サイエンスアゴラ賞には、「楽しいサイエンス部門」と「サイエンス対話部門」の2部門を設けました。「楽しいサイエンス部門」ではサイエンスに対する人々の興味関心を広げることに貢献する優れた企画を、「サイエンス対話部門」ではサイエンスと社会との関係についての議論を促進する優れた企画を選定しました。選定にあたっては、10名の審査委員が「手法」「実施内容」の観点から審査を行い、その結果をもとにJSTが受賞企画を決定しました。また、来場者人気投票で最上位となった企画には「来場者特別賞」を授与しました。

来場者の皆さまより

・・・アンケートでいただいたフリーコメントのご紹介です

盛りだくさんでうれしい、といったご意見をいただきました。その一方で、会場が分散しわかりにくかったというご指摘がありました。

- ⊙ 小学生、中学生、大人共楽しめる内容があり、それぞれのブースでとてもいいねに、熱心にわかりやすく説明していただき、興味をもてる事が沢山あり本当に楽しめました。工作やショーなど、迷う程沢山あってまた来年も是非来たいと思いました。今回をきっかけに知ったグループや催し等活用したいと思います。来年も楽しみにしています。(40代女性、主婦)
- ⊙ 好奇心がくすぐられます。(女性、技術開発・研究系)
- ⊙ 1日では回り切れないほどたくさんブースがあり充実できました。(40代女性、主婦)
- ⊙ 色々なテーマのものを子供といっしょに楽しめてよかったです(40代女性、主婦)
- ⊙ 最新技術がたくさんあって楽しかった!(10代女性、高校生)
- ⊙ もっと早い時間からくればよかったです。来年は朝から来ます!!(30代女性、その他社会人)
- ⊙ バランスよく会場が配置されており、とても見やすかったです(10代男性、小学生)
- ⊙ どのブースでどのようなことがやっているのかももう少し具体的に書いてくれるとわかりやすい(20代女性、その他学生)
- ⊙ 催し物の内容がWebやパンフレットを見てもわかりにくく、実際に来てみて初めてどういうモノか分かった。事前の情報提供の方法を見直して下さい。(40代男性、事務系)
- ⊙ 会場が分散していて分かりづらい。(40代男性、技術開発・研究系)
- ⊙ 講演会の時間が、かぶっていて、見たいものが見れない。時間を長くして。(30代男性、事務系)

全体そしてひとつひとつの展覧へのエールもありました。お子さま連れにとっては今回も、わかりやすく楽しい体験型展覧が人気だったようです。

- ⊙ 子供が興味を持ちそうな、分かりやすく楽しい内容が多かった。大人も楽しめた。興味を持たせて楽しませて終いではなく他や次につなげる内容もあって良かった。(40代女性、主婦)
- ⊙ 若い人自身による企画が豊富な印象でとてもよかったです(40代女性、教職(高専・大学))
- ⊙ 科学に関心の高い出展者さん、来場者さんがたくさんいることがわかってよかった(30代男性、技術開発・研究系)
- ⊙ 実験や体験ができて科学を身近に感じることができた。(30代男性、その他社会人、お子さま連れ)
- ⊙ 震災に関する展示が多かったのが良かったです(10代女性、中学生)
- ⊙ 個々のブースでの展示案内がていねいで分かりやすかったです(20代女性、教職(中学))
- ⊙ 迷ったが来てよかった!!来年も来たいです。サイエンスカフェって深い。(20代女性、高専・大学生)
- ⊙ サイエンスアゴラ賞の発表についてですが、出展者側にもう少し認知させた方がよいと思われました。(受賞者発表会など)自分は福島出身なので今回の発表をみて、元気をもらいました、ありがとうございました。(20代女性、高専・大学生)

ご要望もたくさんいただきました。とりあげてほしいテーマでは、定番の「宇宙」「進化」「DNA」のほか、注目されている「iPS細胞」、そしてやはり外せない「放射能」などの言葉が目立ちました。

- ⇒ 次回は、今回まいいたタネが、一年でどのように育ったのかとりあげてほしい。(30代男性、教職(高校))
- ⇒ 小さい子どもでもわかるようなコーナーがあるといい。展示物にひらがなを入れるとか(40代女性、主婦)
- ⇒ 実けんショーを午後もやってほしい(9歳以下男性、小学生)
- ⇒ もう少し、中高生向きの実験があっても良かった。学校(や部活)で参加できるような、複数のテーマを希望。折角よいprogramなので、3日間ではなく1週間ぐらい開催すればよいと思った。(50代女性、事務系)
- ⇒ 来年はもっとイベントを増やし、学生がブースを設けやすくして欲しいです。(10代男性、高校生)
- ⇒ この様なイベントの知名度、認知度が上がればと思う(20代男性、大学院生)
- ⇒ 体験できる科学実験、特に屋外のを充実させて頂けますか?(40代男性、事務系)
- ⇒ もう少し専門的でも良いかもと思います。(10代男性、中学生)
- ⇒ 国際的なイベントを増やすべき。(30代男性、技術開発・研究系)

回答数：218 (自由回答記入率 29.2%)

CyberAgora 2011

・・・反響はオンラインにもひろがります

前回2010に引き続きTwitterが大活躍。加えて、サイエンスアゴラインターン生による感想共有プロジェクト「あぞりんく！」も試みました。



サイエンスアゴラ2011では記録も強化。この報告書はもちろん、シンポジウム録画・録音や会場写真、出展者の個別報告ページ、さらには現地で配られたチラシのコピーなど、公式ウェブサイトでも幅広く公開中です。ぜひアクセスしてみてください!



>> <http://scienceagora.org/>



## 出展者の皆さまより

・・・アンケートでいただいたフリーコメントのご紹介です

出展しての「ひとこと感想」をいただきました。

- ⊕ 震災に関係する企画や、科学に興味を持つ入り口となる企画が多く、良かったと思います。
- ⊕ 福島からの出展があり、苦勞が多い中での現地での活動報告に心動かされた
- ⊕ 来場者の方々の、震災からの再生に向かうエネルギー・科学に対する興味に、良い刺激を受けた。
- ⊕ このテーマは2011年を象徴していると思います。
- ⊕ 難しい問題が山積していますが、国民一人一人が、基礎科学を踏まえて、判断してゆく環境を整えることが、究極の解決策です。その意味でも、サイエンスアゴラの試みが継続されることが極めて重要です。
- ⊕ 震災があっても、変わらずサイエンスアゴラが開かれたこと、この日常を嬉しく思いました。
- ⊕ 今年は未来館1階の会場にブースが多く賑やかでした。市民が科学に親しみ興味の目を伸ばす科学の祭典、という熱気が感じられる中で多様なイベントが開催され、相乗効果で全体が盛り上がったように思います。
- ⊕ 意味あるイベントなので、今後、更に広く一般の方に知られるイベントになって欲しい。
- ⊖ 会場が分散しすぎていたのに加え、総合案内所や各展示場の案内所で、屋外展示への案内が十分なされていない。
- ⊕ 学園祭のようで楽しかったです。簡易な実験を実施して、来訪者と一緒に盛り上がりました。来年も楽しめるよう、新しい企画を考えたいと思います。
- ⊕ 専門家と非専門家間の交流の必要性・有効性が実感できた。実施に際し、多くの人から協力を得ることができた。
- ⊕ 今回初めてのサイエンスカフェ開催で、課題は多かったですが、参加者の方々の光合成研究への興味を知ることができ、今後のアウトリーチ活動への良いフィードバックになりそうです。
- ⊕ 日頃、やっていることをたくさんの人に見ていただきよかった、また今後のモチベーションアップになった。
- ⊕ 8才から82才の方まで、研究者から主婦まで、科学をテーマに活気ある交流の場ができて良かったです。
- ⊕ 人とのつながりが見えたイベントでした
- ⊕ 研究会以外の方々も議論に参加していただけて、アゴラならではの広がりがあった。
- ⊕ たくさんになるまで頑張れた。展示に参加して下さった方々のおかげだと思います。
- ⊕ 今年のアゴラも熱かったです。Innovationが起きそうな気がしました。一緒に参加したメンバーが楽しそうでした。
- ⊕ 自分たちのイベントを準備しているとき、お隣りで開催中のイベントが楽しそうで見移りました。
- ⊕ サイエンスに興味のある人々と交流できて、サイエンスコミュニケーションへの意欲もさらに高まりました！
- ⊕ 大きな転換点となった会ではなかったでしょうか。サイエンスコミュニケーターのアゴラから、サイエンスコミュニケーションのアゴラへ。
- ⊕ ポスター展示用のダンボールブースがいいと思いました。
- ⊕ アゴラが認知されてきた
- ⊕ 悪天候にもかかわらず、多くの来場者にお越しいただきました。日本の科学の更なる発展を願います。

## ご協力者コメント

**田中佐代子さん（筑波大学芸術系 准教授）**・・・ロゴタイプ・ポスター・キャラクターのデザインで協力

サイエンスアゴラ2011のロゴタイプとポスターのデザインを、筑波大学芸術専門学群2年生対象の授業課題として行いました（担当教員：田中佐代子、受講者約30人；写真）。最終的にロゴタイプは堀内理恵、ポスターは長田絵理香のデザインが採用されました。また長田絵理香が「三つ子のひよこ」キャラクターもデザインしました。楽しい経験をさせていただき、ありがとうございました！

**高田傑さん（高田傑建築都市研究室）**・・・休憩所「TOPOS」デザインを含む会場設計コンサルティングで協力

様々な展示が程よく混在することで、お祭りのような熱気を生み出しているように思いました。TOPOSも適宜分散配置され、休憩スペース、談話スペースとして機能していて非常にほっとし、かつ嬉しく思いました（写真）。今後はデザインクオリティの高め方と、誘導やインフォメーションなどの更なる役割の付加を考えたいですね。また（難しいとは思いますが）、パーティションや細やかなものでデザインが行き届くともっと華やいだ印象になると思います。同じ内容の催しでも「ゾーニング」や「見せ方」一つでガラリと印象が変わるものだなー、と少しでも実感していただけたら幸いです。来年も更なるブラッシュアップを図りましょう！

**丸尾美奈子さん、尾川慎介さん（東京工業大学大学院理工学研究科 修士課程）**

東工大からのインターン生として、出展者インタビューやTwitterでの企画紹介、会場案内スマートフォンアプリの開発、参加者が感想を共有するためのコメント投稿ページ作成などに取り組みました。アプリは50名以上の方に使っていただけたようです。投稿ページには「ダチョウのたまごの解体ショーがすごい」「身近な日常に潜む不思議に驚きました」などのコメントが寄せられました。いずれのコンテンツも多くの方のご協力によって実施することができました。ご支援・ご参加ありがとうございました！



◀ チラシのデザインは、筑波大の学生さんに授業課題として取り組んでいただきました。「ひよこ」キャラクターの「お母さん」たちもポスター発表（Ma-69）。

▼ 「新たな科学のタネから出た芽」をモチーフにしたTOPOS。WiFiスポットとしても好評でした。



▼ 暴風雨の中、会場間を右に左に走り回った東工大インターンのおふたり。



# 会場案内

→ FLOOR MAP

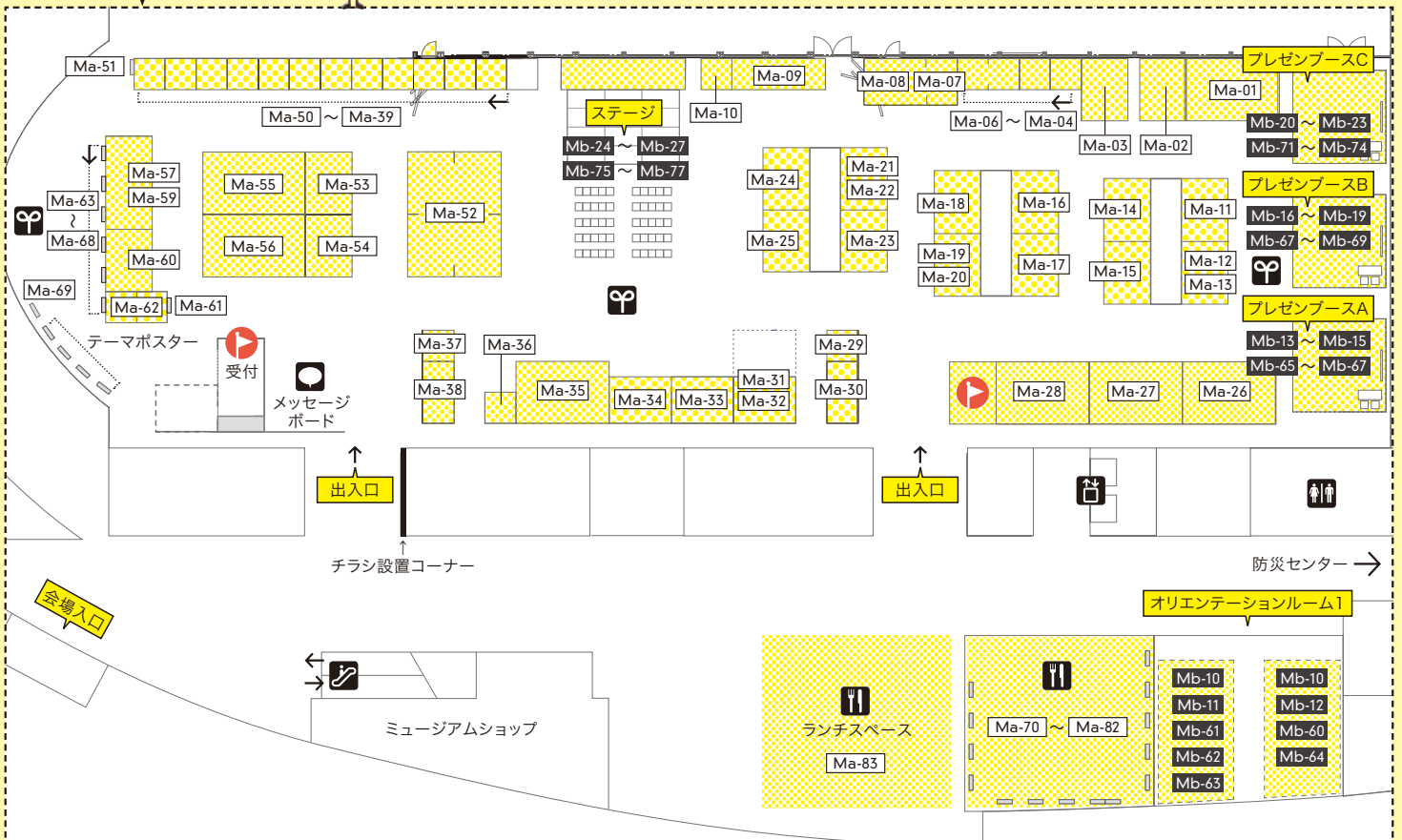
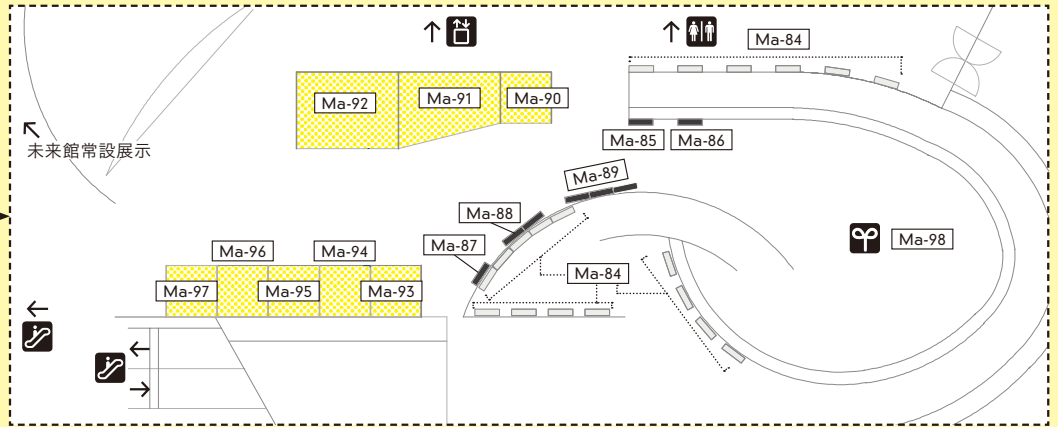
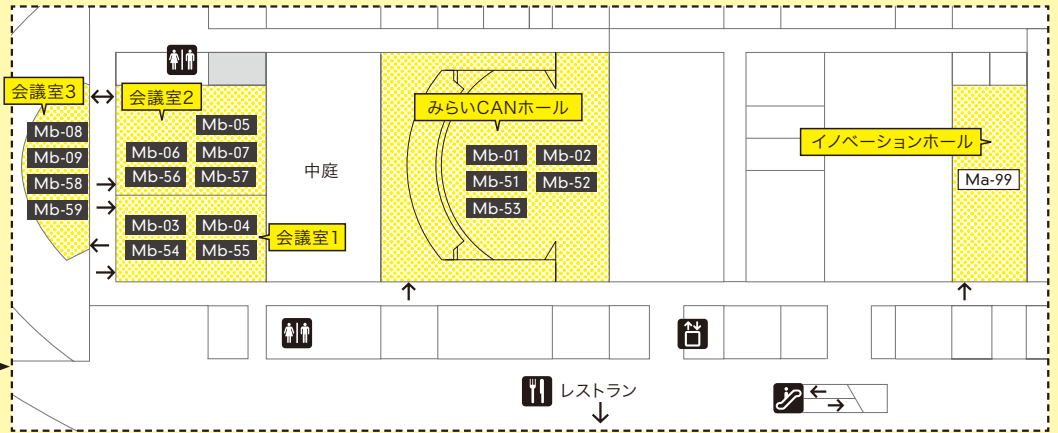
## M 日本科学未来館 (A会場)

Ma … 終日やっている出展

Mb … 決まった時間に開催されるイベント



5F ベビーズカフェ、カフェ



会場番号について

出展形態

- a → 終日やっている出展
- b → 決まった時間に開催されるイベント

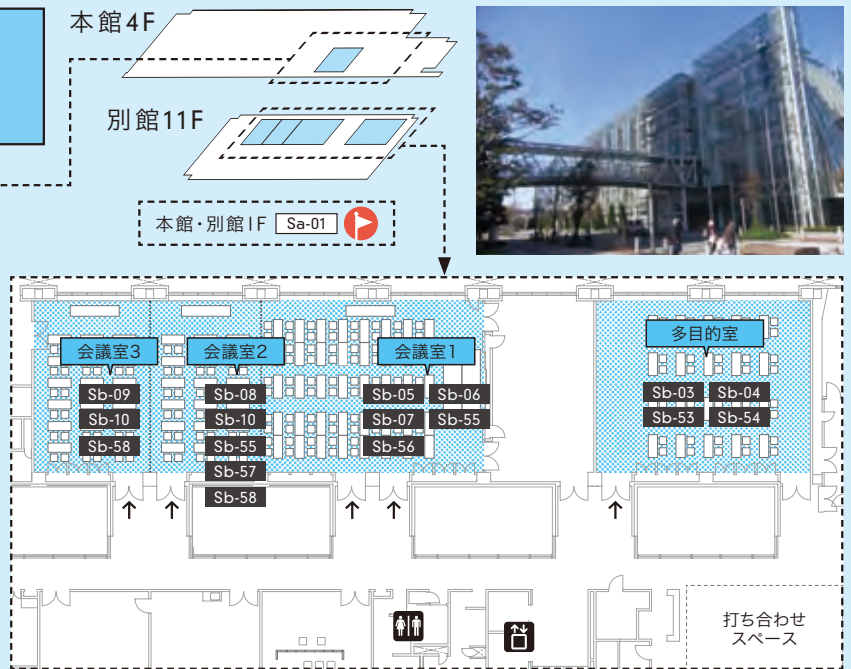
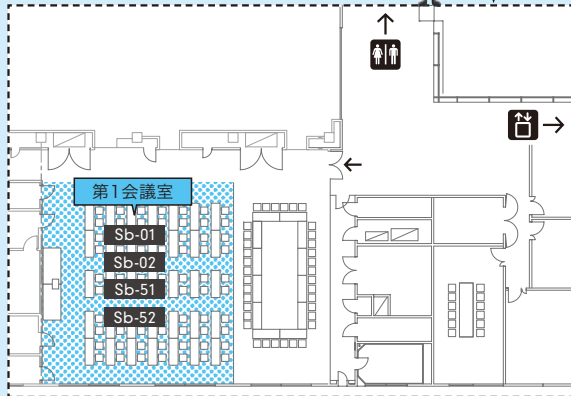
Mb-xx 通し番号

出展会場イニシャル

- M 日本科学未来館
- T 東京都立産業技術研究センター
- S 産業技術総合研究所臨海副都心センター
- P シンボルプロムナード公園(屋外会場)

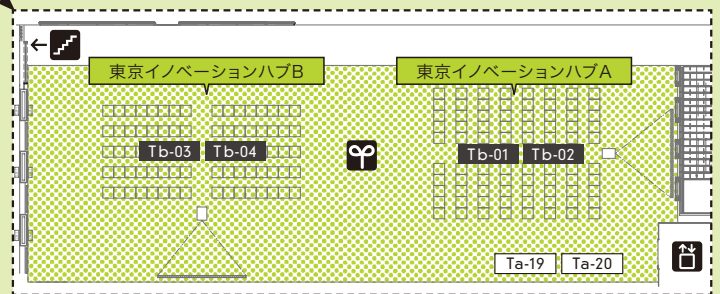
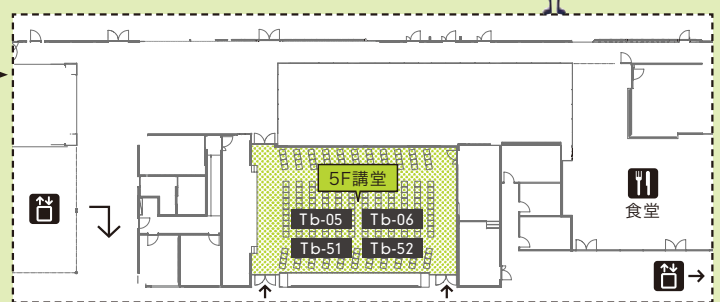
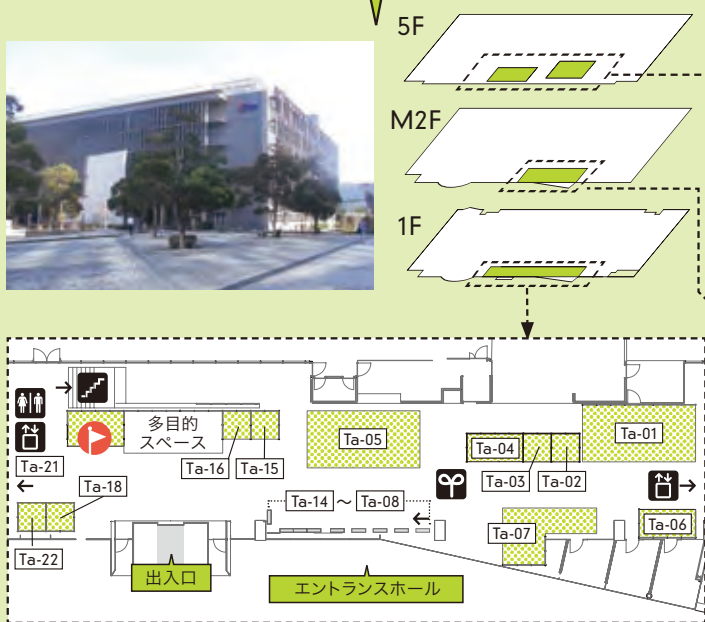
**S** 産業技術総合研究所  
臨海副都心センター(本館・別館)  
(B会場)

- Sa … 終日やっている出展
- Sb … 決まった時間に開催されるイベント



**T** 東京都立産業技術研究センター (C会場)

- Ta … 終日やっている出展
- Tb … 決まった時間に開催されるイベント



**P** シンボルプロムナード公園(屋外会場) (D会場)

- Pa … 終日やっている出展



# 11.19 (sat) / タイムテーブル

→ TIMETABLE

M 日本科学未来館 (A会場)		10:00~	11:00~	12:00~	13:00~	
ステージ	1F	見えないものをイメージするサイエンスショー Science Performance KASA Mb-24		アゴラステージ:中高生と語り合う再生可能エネルギー サイエンスアゴラ2011企画委員会 Mb-25		
オリエンテーション ルーム1(会場入口側)	1F	牛乳パックでスコープを作ろう! 理科コミュ Mb-10		昼食・休憩スペースとして開放		
オリエンテーション ルーム1(防災センター側)	1F					
プレゼンテーション ブースA(廊下側)	1F	水の不思議(網で水を止める) 夏目雄平(千葉大学理学部物理学科) Mb-13		科学の描き方、探りませんか!? 佐藤 実 Mb-14		
プレゼンテーション ブースB(中央)	1F	CCS (Crazy Clever Science) 早稲田摂陵中学校・高等学校 生物研究部 Mb-16		不思議な動く木のおもちゃ集合! (第一回) 湯元桂二 Mb-17		
プレゼンテーション ブースC(奥側)	1F	基礎科学の現場から ~大学生と大学院生が 伝える基礎科学の姿 Otoi Mb-20	上村想太郎氏に続け! 米国での研究成果から若手科学賞まで 独立行政法人理化学研究所 Mb-21	見て聞いて! やってきた! 科学読物研究		
みらいCANホール	7F					危ないってどういうこと?—生活の サイエンスアゴラ2011企画委員会 Mb-01
イノベーションホール	7F	「きみたちの魔法—化学『新』発見」展 公益社団法人 日本化学会 Ma-99				
未来館会議室1	7F					世界を救う?救わない? 新しい生 日本科学未来館 Mb-03
未来館会議室2	7F	光と植物の不思議 -光合成研究の今と未来- 日本光合成学会 若手の会 Mb-05		あなたの元素力、判定します!『元素 元素周期表同好会 Mb-06		
未来館会議室3	7F	小学校理科をたのしくさせる工夫 教科「理科」関連学会協議会(CSERS) Mb-08		震災とこれか 独立行政法人 Mb-09		

S 産業技術総合研究所 臨海副都心センター 本館 (B会場)		10:00~	11:00~	12:00~	13:00~	
会議室1	4F					ジオツーリズムの楽しみ方 ジオツーリズム研究会 Sb-01
別館						
多目的 スペース	11F					省エネルギー社会 NPO法人 日本サイエンスサービス Sb-03
会議室1	11F					はばたけ理系女子! ~未来の科学技術の世界 東北大学 女性研究者育成支援推進室 サイエンス・エン 「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」プロジェクト
会議室2	11F					原子力と向き合う ~教育的観点からの提起~ コミュニティ研究会 Sb-08
会議室3	11F					回して測ろう・はじめてのデジタル センサ・オブ・センシング Sb-09

T 東京都立 産業技術研究センター (C会場)		10:00~	11:00~	12:00~	13:00~	
多目的 スペース(晴天時)	1F	小中高校生向けロボット授業プログラム 特定非営利活動法人コアネット Ta-16				
多目的 スペース(雨天時)	1F	電気二重層キャパシタで走る充電式電気自動車を作ろう 電気理科クラブ Ta-07		サイエンスマーケット(物販コーナー) サイエンスグッズや書籍を限定販売!	※晴天時は屋外開催	
東京イノベーション ハブA	M2F	2012年金環日食講習会 日本天文協議会 2012年金環日食日本委員会 Tb-01				
東京イノベーション ハブB	M2F					経済学×脳科学 質問から読み解く「あなたの好み」? 文部科学省「脳科学研究戦略推進プロ
講堂	5F					ポッドキャストを使った科学情報 インターネットラジオ局くりらじ Tb-05

14:00~	15:00~	16:00~	17:00~
	アゴラステージ:ものづくりマイスター サイエンスアゴラ2011企画委員会 Mb-26		ロボット楽団コンサート ~科学はどこまで音楽に近づけるか 国立鹿児島工業高等学校 Mb-27
		緑の芽吹きワークショップ: 何ができる?持続可能な社会に向けて 緑の芽吹きワークショップ実行委員会 Mb-11	
		リベラルアーツカフェ[出張版] inサイエンスアゴラ2011 NPO静岡ラーニング・ラボ Mb-12	
		トークライブ・映画で語るサイエンス 斉藤勝司・粥川準二 Mb-15	
	不思議な動く木のおもちゃ集合!(第二回) 湯元桂二 Mb-18		世界をつなぐ光 震災を超えて次世代へ&実験ショー 東北大学 金属材料研究所 松岡研究室 Mb-19
科学絵本の本読み隊が パートII 会 Mb-22		生物の振動反応を化学的にみてみよう! 桜美林大学リベラルアーツ学群 Mb-23	
中のリスクと科学リテラシー		東日本大震災後の海洋汚染の広がりとその影響 日本海洋学会震災対応ワーキング・グループ Mb-02	
き物を創るということ		日本の魅力、再発信! ~留学生、研究者とともに語る~ 国際研究交流大学村 Mb-04	
検定』		科学・技術でわかること、わからないこと 日本学術会議科学力増進分科会 Mb-07	
らのエネルギー教育について考える 科学技術振興機構			

14:00~	15:00~	16:00~	17:00~
		本音で語る"夢の葉"-2010年問題をぶっ飛ばせ- 横山雅俊(NPO法人市民科学研究室)、山本伸(サイコムキャリア)、 #phdjp科学と社会ワーキンググループ Sb-02	
		科学のハナシの届け方 科学技術広報研究会 Sb-04	
で活躍しよう~ ジェル、日本ロレアル株式会社 Sb-06		大学院生と若手研究者のキャリアを考える 生化学若い研究者の会 キュベット委員会 第51回生命科学夏の学校参加者有志 Sb-07	
計測		若手サイエンスコミュニケーター進路相談&交流会 ウィークエンド・カフェ・デ・サイエンス (WEcafe)事務局、 一般財団法人 武田計測先端財団 Sb-10	

14:00~	15:00~	16:00~	17:00~
	小中高校生向けロボット授業プログラム 特定非営利活動法人コアナット Ta-16		
		デジタル立体地球儀でみる地球と惑星 京都大学理学部地球惑星科学専攻 地球科学総合部可視化チーム Tb-02	
グラム」 Tb-03		ウィキペディアとサイエンス/百科事典と科学 ウィキペディア日本語版有志 Tb-04	
番組配信への取り組み		千石先生の「いのちはみんなつながっている」 「いのちはみんなつながっている」上映実行委員会 Tb-06	

# 11.20 (sun) / タイムテーブル

→ TIMETABLE

M 日本科学未来館 (A会場)		10:00~	11:00~	12:00~	13:00~
ステージ	1F		アゴラステージ:サイエンスショー大集合 サイエンスアゴラ2011企画委員会 Mb-75		ロボット楽団コンサート ~科学はどこまで音楽に近づけるか 国立鹿児島工業高等専門学校 Mb-76
オリエンテーション ルーム1(会場入口側)	1F		おしゃべりサイエンス茶話会 Science Air「おしゃべりサイエンス」事務局 Mb-63		宇宙箱舟ワークショップ ~宇宙に連れていくとしたらどんな 宇宙箱舟推進委員会 Mb-61
オリエンテーション ルーム1(防災センター側)	1F		地球惑星科学cafe ~宇宙と天気の本格的な関係~ Universal Earth (ユニアス) Mb-60		基礎科学の現場から ~大学生と大学院生が伝える基礎 OtoI Mb-64
プレゼンテーション ブースA(廊下側)	1F		人間はどこから来たか。 厚木科学協会 Mb-65		見て聞いて!科学絵本の 本読み隊がやってきた!パートII 科学読物研究会 Mb-66
プレゼンテーション ブースB(中央)	1F		世界をつなぐ光 震災を超えて次世代へ&実験ショー 東北大学 金属材料研究所 松岡研究室 Mb-68	世界をつなぐ光 震災を超えて次世代へ&実験ショー 東北大学 金属材料研究所 松岡研究室 Mb-69	
プレゼンテーション ブースC(奥側)	1F	オミックス基盤研究領域 3D映像「セントラルドグマ」 独立行政法人理化学研究所 Mb-71	オミックス基盤研究領域 「わきが」もわかるSmartAmp法 独立行政法人理化学研究所 Mb-72	オミックス基盤研究領域: 3D映像 「セントラルドグマ」 独立行政法人 理化学研究所 Mb-71	見えないものが見えてくる 一次世代放射光施設SACLAにつ 独立行政法人理化学研究所 Mb-74
みらいCANホール	7F		“FUKUSHIMA”からのイマジネーション 独立行政法人科学技術振興機構 Mb-51		政策形成における 科学的助言のあり方 独立行政法人科学技術振興機構
イノベーションホール	7F	「きみたちの魔法-化学『新』発見」展 公益社団法人 日本化学会 Ma-99			
未来館会議室1	7F		TECHTILEワークショップ ~ 触感を表現する・触感で表現する~ JST-CREST「さわられる情報環境」プロジェクト × TECHTILE × YCAM InterLab Mb-54		コンピューターでインフルエンザウ 北海道大学人獣共通感染症 リサーチセンター Mb-55
未来館会議室2	7F		科学オリンピック~科学の甲子園: チャレンジのチャンスは広がった 独立行政法人科学技術振興機構 Mb-56		それって本当? -3/11大震災を 独立行政法人科学技術振興機構 Mb-57
未来館会議室3	7F		高校生のディベートによる遺伝子組換え農作物に関する議論 食のコミュニケーション円卓会議 Mb-58		サイエンスクライシス ~情報のウ 独立行政法人科学技術振興機構 Mb-59

S 産業技術総合研究所 臨海副都心センター 本館 (B会場)		10:00~	11:00~	12:00~	13:00~
会議室1	4F		とことん話し合い「科学コミュニケーションは”独自の”分野か?」 科学コミュニケーション研究会 Sb-51		検証・原発震災報道 メディアは 原発震災を検証する有志の会 Sb-52
別館					
多目的室	11F		社会をカンショウする科学と芸術 「つくる、つながる、つかう」プロジェクト Sb-53		クラシックな科学映画の世界へよ 科学映画を観る会 Sb-54
会議室1	11F		脳について語ろう、聞いてみよう:脳科学の「料理法」 文部科学省『包括型脳科学研究推進支援ネットワーク』 Sb-55		スーパーコンピュータは銀河形成 計算基礎科学連携拠点 Sb-56
会議室2	11F		教科書なんて全部ゲームになればいい ~科学を学ぶは科学で遊ぶ~ みけねこサイエンスプロジェクト Sb-57		世界初のメガネなし3Dテレビ 開発物 日本女性技術者フォーラム Sb-58
会議室3	11F				

T 東京都立 産業技術研究センター (C会場)		10:00~	11:00~	12:00~	13:00~
多目的 スペース(晴天時)	1F	小中高校生向けロボット授業プログラム 特定非営利活動法人コアネット Ta-16			
多目的 スペース(雨天時)	1F	電気二重層キャパシタで走る充電式電気自動車を作る 電気理科クラブ Ta-07		サイエンスマーケット(物販コーナー) サイエンスグッズや書籍を限定販売!	※晴天時は屋外開催 ☎
東京イノベーション ハブA	M2F	レゴ宇宙にエレベーター クライマーレース2011@アゴラ 一般社団法人 宇宙エレベーター協会 Ta-19			
東京イノベーション ハブB	M2F	未来の宇宙エレベーターをレゴでつくってみよう 日本大学理工学部精密機械工学科 Ta-20			
講堂	5F		計算科学と化学の不思議で楽しい関係 ー世界化学年に 日本コンピュータ化学会 Tb-51		サイエンスアゴラ2011出張「ユニ 学生集団「ちもんず」 Tb-52

14:00~				15:00~				16:00~				17:00~			
				第3回科学ドラマ大賞授賞式 独立行政法人科学技術振興機構 Mb-77											
生き物?~				宇宙・地学カフェ 顔の見えるサイエンス・テール Mb-62											
科学の姿~															
				歌と化学でつながろう スイヘイリーベ~魔法の呪文~ 日本科学未来館 Mb-67											
いてー															
Mb-52				総括セッション「新たな科学のタネのまき方」 独立行政法人科学技術振興機構 Mb-53											
イルスの変異を予測する															
テーマにー															
ラオモテ~															

14:00~				15:00~				16:00~				17:00~			
リスクをどう捉えたか															
うこそ															
の夢を見るか?															
語と女性技術者たちの本音トーク															

14:00~				15:00~				16:00~				17:00~			
科学の心と日本の心 炭科学と知恵 裏千家インターナショナルアソシエーション Pa-04															
パース」															

…子ども向け …教育関係者向け …科学コミュニケーター向け …ブース …ポスター …工作・実験 …ワークショップ …ショー・講演 …実費あり …震災関連  
…11/19(土)のみ …11/20(日)のみ

**M** 日本科学未来館 (A会場)



1F (Ma-01~83)

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p>01 『えれめんとランプ』<br/>元素周期表カードゲームで<br/>対戦!<br/>元素周期表同好会</p> <p>02 元素ゲーム<br/>(花火の色には<br/>なぜ色々あるの?&amp;元素かるた)<br/>Mプロジェクト 科学リテラシー研究会</p> <p>03 第2回科学ドラマ大賞作品<br/>「しあわせ色の花火」の<br/>上映会と解説<br/>独立行政法人科学技術振興機構</p> <p>04 写真でみる元素周期表<br/>マイクロフォトスタジオ<br/>ねこのてぶくろ亭</p> <p>05 イラスト周期表と鉱物漫画<br/>つゆねこ企画</p> <p>06 図形と空間の不思議<br/>敷き詰め模様で遊ぼう!<br/>日本テレレーションデザイン協会</p> <p>07 見える光・見えない光<br/>三菱電機株式会社</p> <p>08 熱と遊ぶ<br/>三菱電機株式会社</p> <p>09 測量技術WS<br/>「ナスカの地上絵の再現+<br/>伊能忠敬のようなこと」<br/>九州産業大学工学部課見泰彦研究室</p> <p>10  リングキャッチャーに挑戦!<br/>科学講座研究会</p> <p>11 量子色力学カードゲーム<br/>「Quark Card Dealer」<br/>計算基礎科学連携拠点</p> <p>12 再生! プラナリアの<br/>プラカードをつくらう!<br/>プロジェクトP</p> <p>13  物質のつくりや<br/>変化をモデルで考えよう<br/>分子モデル製作</p> | <p>14 氷やガスハイドレートの<br/>結晶模型を作ろう<br/>氷と雪結晶の研究室</p> <p>15 親子で本気の理科実験<br/>理科教育研究フォーラム</p> <p>16 理系漫画のつくりかた<br/>はやのん理系漫画制作室</p> <p>17 あっ捨てないで!<br/>それで理科遊びをしよう!<br/>蔵前理科教室ふしぎ不思議</p> <p>18 理科がどんどん好きになる!<br/>天びんで<br/>てこの原理を体験学習<br/>株式会社 島津製作所</p> <p>19  自然エネルギーを利用して<br/>再生可能エネルギーを<br/>考えよう!<br/>株式会社 島津理化</p> <p>20  富士山頂実験室<br/>富士山頂実験室</p> <p>21  隠された色に秘密がいっぱい!<br/>きらきら顔料で筆描染<br/>ケニス株式会社</p> <p>22  3Dを楽しもう<br/>(視覚の不思議)<br/>わくわく科学クラブ</p> <p>23 触れて感じて学ぶ考古学!<br/>inお台場<br/>～縄文に学ぶ人類の智慧～<br/>名古屋大学ミュージアム<br/>活性化プロジェクト</p> <p>24 アゴラステージ:<br/>ものづくりマイスター<br/>サイエンスアゴラ2011企画委員会</p> <p>25 いのちをつなぐもの<br/>—それはDNA<br/>バイオのたまご</p> <p>26 観る・知る・遊ぶ<br/>『理科雑誌★RikaTan★』で<br/>理科の探検!<br/>左巻健男と『RikaTan:理科の探検』誌委員</p> <p>27 かがく縁日パートIV&amp;<br/>Let's理科読<br/>科学読物研究会</p> <p>28 miniセルフェスタ<br/>日本学会会議科学力増進分科会</p> <p>29 「計測と制御」が学べる<br/>ロボット「DREAMS」<br/>株式会社ロボット科学教育</p> <p>30 科学で世界にとびだそう<br/>独立行政法人科学技術振興機構</p> <p>31  物質の三態に関する実験<br/>豊岡岡女子学園化学部</p> | <p>32  中高生と今だから<br/>考える原子力ワークショップ<br/>株式会社リハネス/<br/>NPO法人原子力と社会に関する<br/>プラットフォーム</p> <p>33 『液体窒素と遊ぼう』<br/>—状態変化を調べる—<br/>中学生科学部グループ</p> <p>34 ノーベル賞を実験しちゃおう<br/>埼玉県立浦和東高等学校<br/>総合科学研究所・東海大学SSE</p> <p>35 人獣共通感染症の<br/>克服を目指して<br/>北海道大学人獣共通感染症<br/>リサーチセンター</p> <p>36 最先端工学の世界を<br/>のぞいてみよう!<br/>東京大学生産技術研究所</p> <p>37 科学をエンタに!<br/>黒ラブ教授のお笑い理系授業<br/>黒ラブ教授</p> <p>38 MOBILESEMで身近な<br/>ミクロを体験しよう!<br/>新日本電工株式会社</p> <p>39 よみがえれ! ふゆみずたんぼ<br/>～気仙沼のたんぼ<br/>復興プロジェクト<br/>GOOE COMPANY</p> <p>40 spffふくしま<br/>支援プロジェクト<br/>ひろげよう! 科学のわ!<br/>ふくしまサイエンス<br/>ぶらっとフォーム(spff)</p> <p>41 あさひかわサイエンス・カフェ<br/>あさひかわ<br/>サイエンス・カフェ実行委員会</p> <p>42 はこだて国際科学祭<br/>—地域型科学<br/>フェスティバルの試み<br/>サイエンス・サポート函館</p> <p>43 東京から科学文化を広げる<br/>フェスティバル・映像祭<br/>第3回東京国際科学<br/>フェスティバル実行委員会・<br/>第2回国際科学映像祭実行委員会</p> <p>44 科学を文化にする人材養成<br/>自然科学研究機構<br/>国立天文台天文情報センター<br/>科学文化形成ユニット</p> <p>45 モバイル3Dシステムで<br/>「mitaka」宇宙旅行を<br/>体験しませんか?<br/>金沢工業大学感動デザイン工学研究所</p> <p>46 茨城県北における地質情報を<br/>活用した地域振興<br/>茨城大学地質情報<br/>活用プロジェクト</p> |
|---|--|--|



- 47 自然と共生した街づくりと防災  
一般社団法人  
生物多様性保全協会
- 48 技術士が支える“がんばれニッポン”  
公益社団法人 日本技術士会
- 49 理系の仕事ー復興の現場でもー  
特定非営利活動法人  
女性技術士の会
- 50 理系と社会  
《日本再生で活躍する理系能力》  
INWES Japan  
(International Network of Women  
Engineers and Scientists:  
国際女性技術者・  
科学者ネットワーク日本支部)
- 51 技術士が支える“がんばれニッポン”  
公益社団法人 日本技術士会
- 52 ミニ予感研究所  
JST CREST  
「デジタルメディア作品の  
制作を支援する基盤技術」領域
- 53 ぼくらの科学文化2  
～親子で楽しむ新・  
科学の時間～  
みたか科学文化の会
- 54 ロボットのいる街角を目指して  
CREST研究領域「共生社会に向けた  
人間調和型情報技術の構築」
- 55 科学・技術を体験しよう  
～産総研ミニキャラバン～  
独立行政法人産業技術総合研究所
- 56 見えないものが見えてくる!?  
夢の光“SACLA”  
独立行政法人理化学研究所
- 57 土 ロボット楽団コンサート  
～科学はどこまで音楽に近づけるか  
国立 鹿児島工業高等専門学校
- 59 日 女性研究者最前線!  
～資生堂 女性研究者  
サイエンスグラント～  
資生堂 女性研究者  
サイエンスグラント事務局
- 60 認識・検索でこんなに化ける本  
普通の本の新しい使い道  
CREST研究領域  
「共生社会に向けた  
人間調和型情報技術の構築」
- 61 東北大学理学研究科に  
おけるアウトリーチ活動と  
その支援  
東北大学大学院  
理学研究科教育研究支援部  
アウトリーチ支援室
- 62 世界をつなぐ光  
震災を超えて  
次世代へ&実験ショー  
東北大学 金属材料研究所  
松岡研究室
- 63 自然を感じ、科学する  
～軽井沢での体験を通して～  
お茶の水女子  
大学附属中学校科学部
- 64 日本地球惑星科学連合の  
高校生発表セッション  
(社)日本地球惑星科学連合
- 65 学ぶ・見る・楽しむ in いばらき  
財団法人茨城県科学技術振興財団  
つくばサイエンスツアーオフィス

- 66 震災後、学生サイエンス  
コミュニケーション  
グループにできること  
筑波大学サイエンス  
コミュニケーショングループSCOUT
- 67 立ち止まって考える  
「不確実な科学的状況での  
法的意思決定」  
RISTEX「不確実な  
科学的状況での法的意思決定」PJ
- 68 市民と学生で創る  
サイエンスコミュニケーション  
北陸先端科学技術大学院大学  
サイエンス  
コミュニケーション研究会
- 69 土 サイエンスアゴラ2011の  
ロゴタイプとポスターデザイン  
筑波大学ビジュアルデザイン  
田中佐代子研究室
- 70 手作り電気教材!  
液状化現象再現装置  
愛知工業大学
- 71 ママ向けお天気教室  
「さいえんずママカフェ」  
一般社団法人日本気象予報士会  
サニーエンジェルズ
- 72 人類学を楽しもう!  
日本人類学会教育普及委員会
- 73 科学ライブショー  
「ユニバース」と学生集団  
「ちもんず」の紹介  
学生集団「ちもんず」
- 74 科学は人が作るもの;  
漫画・ゲームで綴る研究者の世界  
博士@Ph.D.と愉快的仲間達
- 75 あいちサイエンスフェスティバル  
名古屋大学サイエンス・  
コミュニケーション推進室
- 76 科学技術と市民を結び  
『しずおか科学技術月間』  
静岡科学館・く・る  
指定管理者(財)静岡市文化振興財団
- 77 土 神話の国シマネの  
縁結びネットワークの実践  
松江工業高等専門学校
- 78 佐久市子ども未来館が  
子どもたちに科学を伝えた10年間  
佐久市子ども未来館
- 79 ドクターわだ重の活動の軌跡  
ドクターわだ重
- 80 理科を教える先生を支援します!  
-理科教員高度支援  
センターの活動  
東京学芸大学  
理科教員高度支援センター(ASCeST)
- 81 文系のための「かわいい物理」  
菊池誠
- 82 猫が語る科学～科学の伝え方の工夫  
佐野和美
- 83 むし食がわかる、世界がかわる  
～3.11から見えてきた昆虫食  
日本科学未来館、食用昆虫科学研究会

### 3F (Ma-84~98)

- 84 サイエンスアートの世界  
Tane+I LLC
- 85 土 サイエンスイラストレーション  
ワークショップ&公開セミナー  
筑波大学芸術専門学群構成専攻
- 86 土 日本サイエンス  
ビジュアルイノベーション  
研究会の活動紹介  
日本サイエンス  
ビジュアルイノベーション研究会
- 87 学生が授業でつくった  
パンフレット  
佐藤実@東海大学理学部
- 88 Art + Design for science  
SYNAPSE Lab. + Oba design  
and education
- 89 見えない世界をのぞこう、  
サイエンスの中のアート  
佐藤亮子
- 90 人と都市の未来の足  
一高齢者向け  
電動アシスト自転車の可能性  
東京工業大学  
お出かけ型介護予防プログラム  
開発プロジェクト
- 91 「適水適所」東日本大震災  
復興と世界の水問題に向けて  
特定非営利活動法人築市薬園
- 92 Resonance-科学とアートの共鳴-展  
総合研究大学院大学  
学融合推進センター
- 93 合成生物学が  
被災地のためにできること  
iGEM 日本チーム
- 94 基礎科学の現場から  
～大学生と大学院生が  
伝える基礎科学の姿～  
OtoI
- 95 体内時計と生活リズムの  
ふしぎな関係  
山口大学 時間学研究所
- 96 自律分散するボールによる  
ペーリング500年目の変革  
株式会社空スペース
- 97 新しいエネルギーへの挑戦  
～未来を拓く核融合～  
日本原子力研究開発機構  
那珂核融合研究所
- 98 これがサイエンスアートだー第2弾  
NPO法人 科学芸術学際研究所ISTA

### 7F (Ma-99)

- 99 「きみたちの魔法  
ー化学『新』発見」展  
公益社団法人 日本化学会

**S** 産業技術総合研究所  
臨海副都心センター (B会場)



1F (Sa-01)

- 01 臨海副都心センター  
(展示コーナー)の休日公開  
独立行政法人  
産業技術総合研究所  
臨海副都心センター

**T** 東京都立  
産業技術研究センター (C会場)



1F (Ta-01~18, 21~22)

- 01 ジャンプロボットを作ろう  
筑波大学大学院システム  
情報工学研究科知能機能システム  
専攻柔軟ロボット学研究室
- 02 生物学教育に生かす  
日本語バイオポータルサイト  
-Jabion-  
情報・システム研究機構  
国立情報学研究所
- 03 持続可能型社会への  
貢献遺伝子の発掘  
長浜バイオ大学
- 04 ヒューマニティー×ブレイン  
文部科学省  
「脳科学研究戦略推進プログラム」

- 05 世界化学年 Catalysis Park  
2011  
触媒学会
- 06 化学の世界の  
ケイサンあれこれ  
日本コンピュータ化学会
- 07 電気二重層キャパシタで  
走る充電式  
電気自動車を作るう  
電気理科クラブ
- 08 科学ディベート講義の  
開発と実践  
日本科学未来館
- 09 教育現場における  
国際交流の実現にむけて  
ライノサポート
- 10 先端スピン計測技術が拓く  
生体機能科学  
先端スピン計測技術が拓く  
生体機能科学 広報委員会
- 11 農業生物資源研究所の  
サイエンス・コミュニケーション活動  
農業生物資源研究所広報室
- 12 生命科学におけるELSI  
(倫理的・法的・社会的課題)  
京都大学人文科学研究所  
ゲノムELSIユニット
- 13 サイエンスコミュニケーション  
ネットワーク横串会活動報告  
サイエンスコミュニケーション  
ネットワーク横串会
- 14 遺伝学へようこそ  
～生命の更なる謎を解き明かす  
国立遺伝学研究所
- 15 宇宙100の謎  
名古屋大学宇宙100の謎プロジェクトチーム
- 16 小中高校生向け  
ロボット授業プログラム  
特定非営利活動法人コアネット
- 18 理科ハウスが選ぶ全国科学館  
オリジナル商品の展示  
世界で一番小さな科学館・理科ハウス
- 21 都産技研体験見学ツアー  
～ものづくりの世界に触れてみよう～  
地方独立行政法人  
東京都立産業技術研究センター
- 22 目 レゴ宇宙エレベーター  
クライマーレース2011  
@アゴラ(ブース)  
一般社団法人  
宇宙エレベーター協会

M2F (Ta-19~20)

- 19 目 レゴ宇宙エレベーター  
クライマーレース2011@アゴラ  
一般社団法人  
宇宙エレベーター協会
- 20 目 未来の宇宙エレベーターを  
レゴでつくってみよう  
日本大学理工学部  
精密機械工学科

**P** シンボル  
プロムナード公園 (D会場)



屋外展示 (Pa-01~06)

- 01 空を飛べたら  
チーム ソアリスト
- 03 土 太陽と遊ぼう!  
～五感で楽しむ太陽～  
星空公園
- 04 目 科学の心と日本の心 炭科学と知恵  
裏千家インターナショナル  
アソシエーション
- 05 目 波のちから  
東京電機大学理工学部物理学教室
- 06 目 マッチ棒ロケットを飛ばそう!  
Science Edge

○a-XX・・・主催・終日

●b-XX・・・主催・時間帯

○a-XX・・・共催・終日

●b-XX・・・共催・時間帯

○a-XX・・・その他・終日

●b-XX・・・その他・時間帯

## 出展者(あ～)

あ	INWES Japan (国際女性技術者・ 科学者ネットワーク日本支部)	Ma-50
	iGEM 日本チーム	Ma-93
	愛知工業大学	Ma-70
	青山学院大学	Ma-99
	旭硝子財団	Ma-99
	あさひかわサイエンス・カフェ実行委員会	Ma-41
	厚木科学協会	Mb-65
	アム・プロモーション	Ta-18
い	イーストエンタテインメント	Tb-06
	一般財団法人武田計測先端知財団	Sb-10
	一般社団法人宇宙エレベーター協会	Ta-19 Ta-22 Ta-20
	一般社団法人カーボンマネジメント・アカデミー	Ma-47
	一般社団法人サイエンス・メディア・センター	Sb-52
	一般社団法人生物多様性保全協会	Ma-47
	一般社団法人日本化学工業会	Ma-99
	一般社団法人日本気象予報士会 サニーエンジェルズ	Ma-71
	「いのちはみんなつながっている」 上映実行委員会	Tb-06
	茨城大学地質情報活用プロジェクト	Ma-46
	岩波映像(株)	Sb-54
	インターネットラジオ局くりらじ	Tb-05
	インテル(株)	Sb-03
う	ウィークエンド・カフェ・サイエンス (WEcafe) 事務局	Sb-10
	ウィキペディア日本語版有志	Tb-04
	宇宙船推進委員会	Mb-61
	裏千家インターナショナルアソシエーション	Pa-04
え	エスティエス(株)	Ma-45
	NECネットワークプロダクツ(株)	Ma-40
	NPO法人科学芸術学際研究所ISTA	Ma-98 Ma-91
	NPO法人原子力と社会に 関するプラットフォーム	Ma-32
	NPO法人静岡ラーニング・ラボ	Mb-12
	NPO法人市民科学研究室	Sb-02
	NPO法人日本サイエンスサービス	Sb-03
	NPO法人富士山測候所を活用する会	Ma-20
	NPO法人北海道科学活動ネットワーク	Mb-24
	Mプロジェクト 科学リテラシー研究会	Ma-02
お	桜美林大学リベラルアーツ学群	Mb-23
	大阪府立大学	Ma-60
	お茶の水女子大学附属中学校科学部	Ma-63
か	顔の見えるサイエンス・テール	Mb-62
	科学映画を観る会	Sb-54
	科学技術広報研究会	Sb-04
	科学研究費補助金 基盤(C) 「科学者のためのサイエンスイラストレーション 作成ガイド」	Ma-69 Ma-85 Ma-86
	科学研究費補助金 新学術領域研究 「蛍光生体イメージ」	Ma-85 Ma-86
	化学工学会	Ta-05
	科学講座研究会	Ma-10
	科学コミュニケーション研究会	Sb-51
	科学読物研究会	Ma-27 Mb-22 Mb-66
	科学読み物シンポジウム	Ma-27
	学生集団「ちもんず」	Ma-73 Tb-52

か	掛川市役所	Ma-90
	鹿児島工業高等専門学校	Ma-57 Mb-27 Mb-76
	金沢工業高等専門学校	Ma-45
	金沢工業大学感動デザイン工学研究所	Ma-45
	(株)イーケイジャパン	Ta-16
	(株)化学同人	Ma-01 Mb-06
	(株)カナカ	Ma-99
	(株)空スペース	Ma-96
	(株)サイエンス・フロンティアズ	Ma-25
	(株)島津製作所	Ma-18 Ma-19
	(株)島津理化	Ma-19
	(株)ナリカ	Ta-19 Ta-20 Ta-22
	(株)日東紡福島工場	Ma-40
	(株)パイロットコーポレーション	Ma-99
	(株)丸越	Ma-26
	(株)三菱ケミカルホールディングス	Ma-99
	(株)リバナス	Ma-32
	(株)ロボット科学教育	Ma-29
	感染症研究国際ネットワーク 推進プログラム・北海道大学拠点	Ma-35 Mb-55
き	菊池誠	Ma-81
	北九州市立児童文化科学館	Mb-17
	九州産業大学工学部諫見泰彦研究室	Ma-09
	九州大学	Ma-60
	教科「理科」関連学会協議会(CSERS)	Mb-08
	京都大学 物質-細胞統合システム拠点 科学コミュニケーショングループ	Sb-53
	京都大学総合博物館	Mb-61
	京都大学人文科学研究所ゲノムELSIユニット	Ta-12
	京都大学理学研究科地球惑星科学専攻 地球科学観測可視化チーム	Tb-02
く	GOOE COMPANY	Ma-39
	蔵前理科教室ふしぎ不思議	Ma-17
	黒ラブ教授(吉本興業)	Ma-37
け	慶應義塾大学環境情報学部 寛研究室	Mb-54
	慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 館研究室	Mb-54
	計算基礎科学連携拠点	Ma-11 Sb-56
	形状記憶合金協会	Ma-99
	気仙沼市立大谷小学校	Ma-39
	気仙沼市立大谷中学校	Ma-39
	ケニス(株)	Ma-21
	原子力産業協会	Ma-32
	元素周期表同好会	Ma-01 Mb-06
	原発震災を検証する有志の会	Sb-52
こ	公益社団法人 滝川スカイスポーツ振興協会(SATA)	Pa-01
	公益社団法人日本技術士会	Ma-48 Ma-51
	公益社団法人日本技術士会 環境部会	Ma-47
	公益社団法人日本地球惑星科学連合	Ma-64
	高エネルギー加速器研究機構	Ma-11 Sb-56
	講談社Rikejo	Sb-06
	氷と雪結晶の研究会	Ma-14
	郡山市ふれあい科学館	Ma-40
	国際研究交流大学村	Mb-04
	国際電気通信基礎技術研究所 知能ロボティクス研究所	Ma-54
	国立遺伝学研究所	Ta-14
	国立大学フェスタ2011	Ma-35 Mb-55
	コミュニティ研究会	Sb-08

こ	昆虫料理研究会	Ma-83
さ	Science Performance KASA	Mb-24
	Science Air「おしゃべりサイエンス」事務局	Mb-63
	Science Edge	Pa-06
	サイエンス・サポート函館	Ma-42
	サイエンスアゴラ2011企画委員会	Ma-24 Mb-01 Mb-25 Mb-26 Mb-75
	サイエンスコミュニケーション ネットワーク横串会	Ta-13
	埼玉県立浦和東高等学校総合科学研究所・ 東海大学SSE	Ma-34
	財団法人生涯学習開発財団	Ma-89
	財団法人茨城県科学技術振興財団 つくばサイエンスタワーオフィス	Ma-65
	斉藤勝司・粥川準二	Mb-15
	「細胞を創る」研究会	Mb-03
	佐久市子ども未来館	Ma-78
	佐藤 実	Ma-87 Mb-14
	佐藤亮子	Ma-89
	佐野和美	Ma-82
	左巻健男と『RikaTan: 理科の探検』誌委員	Ma-26
し	JST-CREST「共生社会に向けた 人間調和型情報技術の構築」領域	Ma-54 Ma-60
	JST-CREST「さわれる情報環境」プロジェクト × TECHTILE × YCAM InterLab	Mb-54
	JST-CREST「デジタルメディア作品の 制作を支援する基盤技術」領域	Ma-52
	JST「数学と諸分野の協働による ブレークスルーの探索」	Mb-55
	JST-RISTEX「不確実な科学的状況での 法的意思決定」PJ	Ma-67
	ジオソロジー研究会	Sb-01
	静岡科学館・くる 指定管理者(財)静岡市文化振興財団	Ma-76
	資生堂 女性研究者サイエンス Grant 事務局	Ma-59
	自然科学研究機構国立天文台	Ma-43
	自然科学研究機構国立天文台 天文情報センター 科学文化形成ユニット	Ma-44 Ma-45 Ma-53
	SYNAPSE Lab. + Oba design and education	Ma-88
	社団法人日本滑空協会(JSA)	Pa-01
	湘南サドベリー・スクール	Mb-12
	情報・システム研究機構 国立情報学研究所 食のコミュニケーション円卓会議	Ta-02 Mb-58
	触媒学会	Ta-05
	食用昆虫科学研究会	Ma-83
	ジョンスホプキンス大学	Ma-84
	新日本電工(株)	Ma-38
す	スズキアリーナ小樽	Mb-24
	住友化学(株)	Ma-99
せ	生化学若い研究者の会 キュベットの委員会・ 第51回生命科学夏の学校参加者有志	Sb-07
	世界で一番小さな科学館・理科ハウス	Ta-18
	石油学会	Ta-05
	Oto1	Ma-94 Mb-20 Mb-64
	センス・オブ・センシング	Sb-09
	先端スピントラップ技術が拓く生体機能科学 広報委員会	Ta-10
	全脳思考ファシリテーター有志	Sb-02
	専門学校東京テクニカルカレッジ	Ma-15
そ	総合研究大学院大学 学融合推進センター	Ma-92
た	第3回東京国際科学フェスティバル実行委員会・ 第2回国際科学映像祭実行委員会	Ma-43

○a-XX ..主催・終日

●b-XX ..主催・時間枠

○a-XX ..共催・終日

●b-XX ..共催・時間枠

○a-XX ..その他・終日

●b-XX ..その他・時間枠

## 出展者(ち～)

た	高砂香料工業(株)	Ma-99
	Tane+1 LLC	Ma-84
ち	チーム ソアリスト	Pa-01
	地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター	Ta-21
	中学生科学部グループ	Ma-33
つ	筑波大学	Ma-66 Ma-84 Mb-58 Ta-08
	筑波大学TARAセンター 若手挑戦型プロジェクト 三輪プロジェクト	Ma-85 Ma-86
	筑波大学 計算科学研究センター	Ma-11 Sb-56
	筑波大学芸術専門学群構成専攻	Ma-85
	筑波大学サイエンス コミュニケーショングループ・SCOUT	Ma-66
	筑波大学大学院システム情報工学研究科 知能機能システム専攻柔軟ロボット学研究室	Ta-01
	筑波大学ビジュアルデザイン田中佐代子研究室	Ma-69
	「つくる、つながる、つかう」プロジェクト	Sb-53
	つゆねこ企画	Ma-05
て	TBSテレビ	Tb-06
	電気学会	Ta-07
	電気理科クラブ	Ta-07
	電子スピサイエンス学会	Ta-10
と	東京応化科学技術振興財団	Ma-27 Mb-22 Mb-66
	東京学芸大学 理科教員高度支援センター (ASCeST)	Ma-80
	東京工科大学	Ma-37
	東京工業大学 お出かけ型 介護予防プログラム開発プロジェクト	Ma-90
	東京工芸大学	Mb-65 Ta-07
	東京大学生産技術研究所	Ma-36
	東京大学総合研究博物館	Ma-72
	東京電機大学理工学部物理学教室	Pa-05
	東京都市大学	Ma-02
	東京とびもの学会	Pa-06
	東邦大学理学部	Ma-02
	東北大学	Ma-60 Ma-84
	東北大学 金属材料研究所 松岡研究室	Ma-62 Mb-19 Mb-68 Mb-69
	東北大学 女性研究者育成支援推進室 サイエンス・エンジェル	Sb-06
	東北大学大学院理学研究科教育研究支援部 アウトリーチ支援室	Ma-61
	ドクターわた重	Ma-79
	特定非営利活動法人コアネット	Ta-16
	特定非営利活動法人 女性技術士の会	Ma-49 Ma-50
	特定非営利活動法人 楽市楽画	Ma-91
	(独)科学技術振興機構	Ma-03 Ma-30 Mb-00 Mb-09 Mb-51 Mb-52 Mb-53 Mb-56 Mb-57 Mb-59 Mb-77
	(独)科学技術振興機構科学部支援事業	Ma-63
	(独)産業技術総合研究所	Ma-55
	(独)産業技術総合研究所 臨海副都心センター	Sa-01
	(独)農業生物資源研究所	Mb-58
	(独)理化学研究所	Ma-56 Mb-21 Mb-71 Mb-72 Mb-74
	豊島岡女子学園科学部	Ma-31
	富山大学科学コミュニケーション研究室	Sb-52
	トレント大学	Ma-84

な	長浜バイオ大学	Ta-03
	中村遊び応用研究所	Sb-57
	名古屋大学	Ma-84
	名古屋大学宇宙100の謎プロジェクトチーム	Ta-15
	名古屋大学サイエンス・コミュニケーション推進室	Ma-75
	名古屋大学ミュージアム活性化プロジェクト	Ma-23
	夏目雄平(千葉大学理学研究科・理学部物理学)	Mb-13
に	2011年中央ろうきん助成プログラム	Ma-71
	日食観測学習連絡会	Tb-01
	日本科学未来館	Ma-83 Mb-03 Mb-67 Ta-08 Ma-99
	日本BD(株)	Ma-40
	日本エネルギー学会	Ta-05
	日本海洋学会震災対応ワーキング・グループ	Mb-02
	日本科学オリンピック推進委員会	Mb-56
	日本化学会	Ma-99 Mb-67 Ta-05
	日本化学連合	Ta-05
	日本学術会議科学力増進分科会	Ma-28 Mb-07
	日本気象協会	Ma-20
	日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所	Ma-97
	日本光合成学会	Mb-05
	日本光合成学会 若手の会	Mb-05
	日本コンピュータ化学会	Ta-06 Tb-51
	日本サイエンス ビジュアライゼーション研究会	Ma-86 Ma-69 Ma-85
	日本ジオパークネットワーク	Sb-01
	日本女性技術者フォーラム	Sb-58 Ma-50
	日本神経回路学会	Sb-55
	日本神経科学学会	Sb-55
	日本人類学会教育普及委員会	Ma-72
	日本生理学会	Sb-55
	日本大学芸術学部	Ta-20
	日本大学理工学部	Ta-19 Ta-22
	日本大学理工学部精密機械工学科	Ta-20
	日本地理学会ジオパーク対応委員会	Sb-01
	日本テレレーションデザイン協会	Ma-06
	日本天文協議会(自然科学研究機構国立天文台、天文教育普及研究会、(独)宇宙航空研究開発機構、日本公開天文台協会、日本天文愛好者連絡会、日本天文学会、日本プラネタリウム協議会、星空を守る会) 2012年金環日食日本委員会	Tb-01
	日本ミュージアム・マネージメント学会	Ta-18
	日本ロレアル(株)「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」プロジェクト	Sb-06
ね	根本特殊化学(株)	Ma-99
の	農業生物資源研究所広報室	Ta-11
	能美市	Ma-68
は	バイオのたまご	Ma-25
	パイロットインキ(株)	Ma-99
	博士@Ph.D.と愉快な仲間達	Ma-74
	はやのん理系漫画制作室	Ma-16
	葉山芸術祭実行委員会	Ma-92
	ハンズオン・イキダグループ	Mb-24
ひ	#phdjp科学と社会ワーキンググループ	Sb-02
ふ	福井工業大学	Ma-21
	福井大学医学部	Ma-13
	福島県	Ma-40
	福島県環境センター	Ma-40
	福島県男女共生センター	Ma-40

ふ	福島県農業総合センター	Ma-40
	福島県ハイテクプラザ	Ma-40
	福島県立図書館	Ma-40
	福島県立博物館	Ma-40
	福島県林業研究センター	Ma-40
	ふくしまサイエンスぶらっとフォーム(spff)	Ma-40
	福島市こむこむ館	Ma-40
	福島大学	Ma-40
	ふくしま森の科学体験センター ムシテックワールド	Ma-40
	富士山頂実験室	Ma-20
	ブラチナ構想ネットワーク	Mb-00
	フランスベッド	Ma-90
	プロジェクトP	Ma-12
	分子モデル製作	Ma-13
へ	平成23年度筑波大学研究戦略プロジェクト「サイエンス ビジュアライゼーションの学際的・ 社会的交流基盤の拡充」	Ma-69 Ma-85 Ma-86
ほ	北陸先端科学技術大学院大学 サイエンスコミュニケーション研究会	Ma-68
	星空公園	Pa-03
	北海道大学グローバルCOEプログラム	Ma-35 Mb-55
	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター	Ma-35 Mb-55
ま	マイクロフォトスタジオ ねこのてぶくる亭	Ma-04
	松江工業高等専門学校	Ma-77
み	みけねこサイエンスプロジェクト	Sb-57
	みたか科学文化の会	Ma-53
	三菱電機(株)	Ma-07 Ma-08
	緑の芽吹きワークショップ実行委員会	Mb-11
も	文部科学省科学研究費新学術領域研究 「ゲノム支援」	Ta-12
	文部科学省「脳科学研究戦略 推進プログラム」	Ta-04 Tb-03
	文部科学省『包括型脳科学研究推進 支援ネットワーク』	Sb-55
や	山口情報芸術センター YCAM InterLab	Mb-54
	山口大学 時間学研究所	Ma-95
	ヤマハモーターエンジニアリング	Ma-90
	山本伸(サイコムキャリア)	Sb-02
ゆ	(有)アピスタ	Ma-40
	(有)グレンデル	Ma-15
	(有)福井ウルテック	Ma-13
	Universal Earth(ユニアス)	Mb-60
	湯元 桂二	Mb-17 Mb-18
よ	横浜国立大学 人間教育科学部気象学研究室	Ma-20
	横山雅俊(NPO法人市民科学研究室)	Sb-02
	よしもとクリエイティブ・エージェンシー	Ma-37
ら	ライノサポート	Ta-09
り	理科教育研究フォーラム	Ma-15
	理科コミュ	Mb-10
れ	レゴエデュケーション	Ta-19 Ta-20 Ta-22
わ	Workroom	Ma-81
	わくわく科学クラブ	Ma-22
	早稲田摂陵中学校・高等学校 生物研究部	Mb-16

登壇者(あ～)

あ 青木義男 Ta-20 明石真 Ma-95 縣秀彦 Mb-53 浅井智広 Mb-05 阿南久 Mb-01 雨谷俊彦 Ma-17 有本建男 Mb-52 安俊弘 Mb-51
い 家城直 Ma-94 Mb-20 Mb-64 伊佐正 Sb-55 石川智久 Mb-72 伊地知寛博 Mb-52 泉田賢一 Sb-57 磯部洋明 Mb-61 Mb-62 市川森一 Mb-77 市川洋 Mb-02 市川まりこ Mb-02 一柳勝宏 Ma-70 伊藤公人 Ma-35 Mb-55 井上真美 Sb-03 今泉忠明 Ma-26 入江敦子 Ma-11 岩井雅子 Mb-05 岩城麻子 Mb-63 岩崎説雄 Ma-25 岩崎秀雄 Mb-03 岩田修一 Mb-51 岩堀禎廣 Sb-02 岩村雅一 Ma-60
う 上田昌文 Mb-52 上原啓史 Ta-03 植松光夫 Mb-02 上村想太郎 Mb-21 碓氷英之 Ma-78 内田誠一 Ma-60
え 榎木英介 Mb-53 遠藤信明 Ma-17
お 大越治 Tb-01 大澤達哉 Ma-17 大竹暁 Mb-52 大竹文雄 Tb-03 大西隆 OP 大西紀和 Mb-05 大西浩次 Tb-01 大場歩 Sb-06 大庭みゆき Mb-09 大橋祐美 Sb-06 大町真一郎 Ma-60 岡島公司 Mb-05 岡田小枝子 Sb-04 岡田努 Mb-53 岡出朋子 Ma-12 岡本暁彦 Ma-95 岡山悠子 Sb-10 小川泰一 Ta-11 小川義和 Sb-51 小田垣孝 Pa-05 小野寺俊哉 Mb-09 尾林彩乃 Mb-02
か 柿島伸次 Mb-67

か 寛康明 Mb-54 笠木伸英 Mb-52 片岡正俊 OP 片岡龍峰 Tb-52 金森晶作 Ma-42 加納圭 Sb-51 神谷真子 Sb-06 亀谷和久 Tb-52 蒲生恵美 Mb-01 粥川準二 Mb-15 川上雅弘 Sb-53 河島壯介 Ma-96 川幡穂高 OP 川端康正 Sb-08 川本思心 Ma-90 神田崇行 Ma-54 菅野康太 Sb-10 神部順子 Tb-51
き 木質大介 Mb-03 菊池誠 Ma-81 Mb-01 黄瀬浩一 Ma-60 北澤宏一 Mb-00 北野諒 Sb-53 北原和夫 Mb-07 木村茂光 Mb-07 木村由紀 Mb-12
く 日下九八 Tb-04 日下部正志 Mb-02 楠見孝 Mb-01 薬作り職人(HN) Sb-02 久保田好美 Ma-94 Mb-20 Mb-64 熊谷現 Sb-10 倉持内武 Ma-17 黒ラブ教授(吉本興業) Ma-37 GwaGwa Sb-55
け こ 月僧秀弥 Mb-75 幸田晃 Mb-27 Ma-57 五箇公一 Tb-06 小鍛治優 Ma-13 小島正美 Mb-01 後藤仁志 Tb-51 児ノ宮正念 Ma-74 小林傳司 OP 小林俊哉 Ma-68 最相葉月 OP 西條美紀 Ma-90 齊藤昭則 Tb-02 斉藤勝司 Mb-15 齊藤真理恵 Ma-94 Mb-20 Mb-64 齋藤めぐみ Sb-53 佐伯平二 Ma-70 坂上雅道 Sb-55 佐倉統 Tb-03 櫻井順子 Sb-54 櫻井弘 Mb-06 笹川由紀 Ta-11 佐々木清 Mb-09 佐藤元 Ma-20 佐藤実 Ma-87 Mb-14 里中遊歩 Ma-26 左巻健男 Ma-26

し 塩田和生 Tb-01 実験太郎 Ma-74 篠崎正利 Ma-17 篠原秀雄 Tb-01 柴田徳思 Mb-07 清水右郷 Sb-08 清水千恵子 Ma-05 白井亜矢子 Sb-58
す 鈴木崇之 Sb-52 鈴木昌弘 Mb-02
せ 関野祐子 Sb-55 関谷完夫 Ma-22
た 代島慶一 Ma-76 高島工 Mb-04 Mb-25 高田礼人 Ma-35 高田知哉 Ma-41 高梨直紘 Sb-51 高橋治 Mb-09 高橋咲子 Ta-11 瀧ノ上正浩 Mb-03 田口康 Mb-09 立花美月 Ma-74 田中沙織 Tb-03 田中幹人 Sb-51 田端萌子 Ta-08 田部井豊 Mb-58 樽田泰宜 Ma-68
ち つ 乳井昌道 Ma-94 Mb-20 Mb-64 塚田麻由子 Ma-76 津川卓也 Tb-02 辻篤子 Mb-52 津田大介 Sb-52
て DJ ATSUKO Sb-55 天元志保 Sb-04
と 土井美香子 Mb-22 樋泉あき Mb-63 ドクターわだ重 Ma-79 飛田賀光 Mb-75
な 中井紗織 Sb-10 長井裕樹 Sb-07 中西友子 Mb-51 中野寛之 Ma-70 永松愛子 Sb-58 長神風二 Mb-53 中村恵子 Tb-51 中村隆之 Sb-57 中村敏和 Ta-10 仲谷正史 Mb-54 夏目雄平 Mb-13 行木陽子 Sb-58 成川礼 Mb-05 難波美帆 Mb-02
に 西田薫 Sb-58 丹羽孝良 Ma-10
の は 橋本睦恵 Sb-06 橋本裕子 Ta-08 Mb-03 長谷川智子 Sb-54 長谷川美貴 Mb-67 濱田嘉昭 Sb-03 林衛 Sb-52 早瀬修二 Mb-09

は はやのん Ma-16 Mb-14 原田佐和子 Ma-27 原田良信 Mb-01 坂東慶一 Sb-55
ひ 平川秀幸 Mb-53 広瀬正史 Ma-22
ふ 福島理恵子 Sb-58 藤井哲之進 Ma-41 藤井直敬 Sb-55 藤井豊 Ma-13 文月悠光 Sb-55 古屋ちえり Mb-22
ほ 細田真妃子 Pa-05 細矢治夫 Tb-51 本田孔士 Mb-07 本間善夫 Tb-51
ま 牧野淳一郎 Sb-56 増田寛也 Mb-00 升本順夫 Mb-02 松井幹彦 Ta-07 松橋隆治 Mb-00 松本佳彦 Ma-94 Mb-20 Mb-64 丸尾佳希子 Ma-93
み 三浦瞬 Ma-94 Mb-20 Mb-64 水町衣里 Mb-61 Sb-51 南澤孝太 Mb-54 蓑田裕美 Sb-10 三原聡一郎 Mb-54 宮崎真一 Tb-02 宮原ひろ子 Mb-60 みわよしこ Sb-09
む も 室伏さきみ子 Mb-07 毛利衛 Mb-07 元村有希子 Mb-53 杜雲翼 Sb-52 森豪 Ma-79 Tb-01 森友和 Mb-03 森祐介 Mb-03
や 柳下正治 OP 八木橋奈央 Sb-06 安川香澄 Mb-04 Mb-25 安田和宏 Mb-63 矢野嵩典 Sb-03 矢部あずさ Ma-11 Sb-10 山下晃 Ma-14 山下宏文 Mb-09 山田健太郎 Mb-60 山田興一 Mb-00 山田裕良 Ma-17 山本栄一 Sb-09 山本大地 Ta-09 山本由佳 Ma-71
ゆ よ 弓場敬夫 Sb-52 横山一郎 Mb-75 横山広美 Sb-51 Mb-53 吉澤剛 Mb-03 吉戸智明 Ma-11
わ 鷺田清一 OP 渡辺寛二 Ma-22 渡邊万記子 Ma-90 渡邊信 Mb-25

## サイエンスアゴラ（科学のひろば）は、次回もあなたを待っています！

## わたし（たち）でも出展できるの？

→個人・団体を問わず、どなたでもご応募・ご出展いただけます。伝えたいことがある、つながりたい人たちがいる、サイエンスと社会との関係を考えたい、そんな気持ちをお持ちの方を歓迎します。

## どんな出し方があるの？

→個人のポスター発表でも数百人規模のシンポジウムでも、まだ誰も試していない斬新な形式でも、あなたのアイデアを広く受け付けます。

出展形式別のプログラム数（※応募時のカテゴリをもとに事務局で分類）

終日出展・・・106	ブース	37
	ポスター	34
	実演・工作	35
時間枠出展・・・69	シンポジウム・トークセッション	28
	ワークショップ・サイエンスカフェ	26
	サイエンスショー・上映・演示	15
その他	複合型、特殊スペースなど	19
プログラム数計		194

## サイエンスアゴラ2011 出展者の方たちに伺いました！

## “つながった” 相手やいきさつについて

- ◎ 自分達で企画したシンポジウムの参加者の方から、メンバーに加わりたいのご連絡を頂くことができました。
- ◎ 中・高校、大学の先生方と話をする機会を持ち、理数教育に対する現場の声を聞く事ができました。
- ◎ ブースに来ていただいた。終了後、新橋で一緒に飲んだ。
- ◎ つながりすぎて、よくわからないw
- ◎ 展示した写真について、雑誌として、あるいは書籍として上梓したいという問い合わせが3件あった。
- ◎ ママ向けお天気教室・・・来年度、佐久市子ども未来館で開催の方向です。
- ◎ サイエンスアゴラ2011 準備段階にて、これまで研究としては交流がなかった人達と、資料を作るために、写真などを提供してもらうことで、繋がる事ができました。
- ◎ 一緒に出展してくれたメンバーが自分のプログラムを準備したり実施するのは大変だったと思うのですが、楽しかったと言ってくれたこと。また参加したいとやる気を出してくれたのは今後につながるの、参加してよかったと思いました。
- ◎ 本企画の参加者同士。日頃の連携事業の企画・実施の際の関わり以上に、ブース運営において互いに協力しながら過ごした2日間は相互理解を超えて、つながったという感じを抱きました。
- ◎ 出展者同士で意見交換をする機会が沢山あった。

## サイエンスアゴラ2012出展タイムライン

（詳細は4月頃、公式ウェブサイトで開催予定） >> <http://scienceagora.org/>



## サイエンスアゴラ2012の場作りに協力したいのですが？

→これまでのサイエンスアゴラでは、企画出展以外にもたくさんの方々にご協力いただきました。企画委員、インターン、アドバイザー、運営ボランティアなど、回ごとにさまざまな役割がありますので、具体的なイメージをお持ちの方はサイエンスアゴラ事務局までお気軽にお問い合わせください。ご協賛のお申し出も検討いたします。

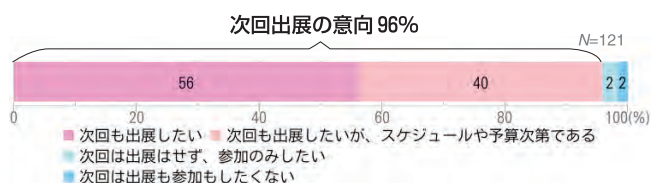
## どんな人たちが出展するの？

→サイエンスを仕事にしている第一線の研究者や大学院生、休日にサイエンスを楽しむ科学ボランティア、教育関係者、科学館職員、企業の研究開発部門やCSR部門、メディア関係者、さらにはアーティスト、漫画家、芸人さん・・・多様な人々が集まるのがサイエンスアゴラの特徴です。詳しくは「データ集」ページや公式ウェブサイトをご覧ください。

## 一度出展するとやみつきに・・・？

## 出展者アンケート設問

「次回のサイエンスアゴラは2012年11月9日（金）～11日（日）を予定しています。ご出展の意向をお聞かせください。」



- ◎ アゴラは本当に「出会いの広場」でした。活動の幅が広がりました。
- ◎ アゴラでの出会いは一生もの！
- ◎ 参加は2回目ですが、毎年新しい人とのつながりができるので、非常に有益な時間を過ごせていると思っています。
- ◎ 参加者、来場者とのコミュニケーションだけでなく出展者同士がつながることのできる機会です。
- ◎ サイエンスアゴラは様々な来場者に恵まれるだけでなく、多様な出展者に恵まれる貴重な場です。自分自身のアウトリーチ活動へのフィードバックとしても有効に機能しますので、積極的に参加されることをお勧めします。
- ◎ サイエンスコミュニケーションに関心がある方は、一度はご出展を。結果がどうあれ、多様な学びが得られますよ。
- ◎ 科学的感覚を身につけられる場をともに作りましょう。
- ◎ ビジネスの場で格闘している、生のサイエンスをお見せしたい！
- ◎ 踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆ならおどらにゃ、そんな精神です、見る側から見せる側へ。
- ◎ サイエンスアゴラは見るだけでも楽しいイベントですが、出展すると10倍楽しくなります。
- ◎ 出るなら目立ちましょう。プログラムのタイトルが大切です。
- ◎ アゴラでしか集まらない人による、アゴラでしかできない企画を考えると、良いと思います。
- ◎ 「いつもと同じイベントを、いつもと違う場所で開催（発信）する」事で、いつもと違う発見や出会いがあり、新たに見えてくるものがたくさんあります。ぜひ一歩を踏み出し、挑戦してみてください！

【編集後記】送信済みトレイに残るメール2000件あまり、どれも「ボチッとな」したときのことはだいたい覚えています。思い返せば、つながる過程が一番楽しんだのは、実は自分だったのかも。至らぬところ多かりしも、出展来場関係各位の太平洋のごとき心に、感謝。役得でした。[SU]/何故か名称だけは知っていたサイエンスアゴラ。まさか自分が事務局として関わることになるうとは…。暴風雨の翌日の鮮やかな青空は、今も忘れられません。色々なつながりから、様々な経験を積み重ねていただきました。サイエンスアゴラに感謝です。[KS]/第1回から第3回までは外部委員として、それ以後は事務局として関わってきました。手作りに近い状態から始めたイベントがここまで成長するとは、感無量です。今回は暴風雨から快晴と振り子が極端に揺れましたが、それにもめげず参加された皆様の熱意に心打たれました。今後ともよろしくお願ひします。[MN]



「挑戦の場」

「実践の場」



「出会いの場」



「つながりの場」

「交流の場」



「語り合いの場」

「共有の場」



「発見の場」



「意見交換の場」

「自己表現の場」

「アピールの場」



「科学と社会の関係を考える場」



「多様な活動を知る場」



サイエンスのとらえかたは人それぞれ！  
今回まかれた「科学のタネ」からは、いったいどんな芽が...？

**サイエンスアゴラ2012(予定) 2012年11月9日(金)～11日(日)**

# SCIENCE AGORA 2011

サイエンスアゴラ2012(予定)

2012年11月9日(金)～11日(日) 東京・お台場地域にて開催

<http://scienceagora.org/>



サイエンスアゴラ2011

お問い合わせ先: 独立行政法人科学技術振興機構 (JST) 科学ネットワーク部

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ TEL: 03-5214-7625 FAX: 03-5214-8088 E-mail: [agora@jst.go.jp](mailto:agora@jst.go.jp)